

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	58	電気使用料 8 設備保守点検委託料 50	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	・辻が池公園の防犯カメラ2台定期検診で不具合発見。	・カメラ本体取替。	・正常な状態が保たれている。		各部会毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照査してまとめを行った。	これまでのグリーンベルトに加え、本年度はソリッドシートや横断歩道のカラー化により、地域の道路安全対策に積極的に取り組んだものと評価。積極的に利用いただきたい。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品整備事業(上池田会館)	314	庁用器具費 314	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	経年劣化により台数が減少 20台余→10台	10台補充	キャスター付きを採用したので、女性・高齢者でも移動などの作業が楽に安全に行えるようになった					地域分権・協働課 共同利用施設管理費
辻ヶ池公園整備事業	1,100	修繕料 1,100	身近な公園に草の経絡をつくり、幼児を含めた家族同士が会話や軽食などを楽しめる交流の場をつくるとともに、土埃の飛散を防ぐ。	幼児用の遊具の周辺の土埃の飛散が多く見受けられる。	補装時期の関係で現在は立入り禁止処置中。今回は補装間隔を狭めたので仕上がりが良好なようだ。		評価書提出時には確認できていない。	冬場の養生		会館の利便性が向上したものと評価。積極的に利用いただきたい。	公園みどり課 公園費
道路安全対策事業①	850	修繕料 850	交通事故防止対策を強化し歩行者の安全を確保するため、ソリッドシート及び横断歩道のカラー化を実施する。	幅員狭いうえに抜け道化し歩行者の安全が脅かされている。	運転者の注意を喚起している。		当該箇所での車輛の速度低下が見受けられる。	メンテナンス費用		適切に補装され、仕上がりについても良好な状況。	公園みどり課 公園費
道路安全対策事業②	810	修繕料 810	池田市の観光資源である城跡公園・阪急文庫・造翁美術館等へのメインルートを中心に歩けるようグリーンベルトを敷く。	阪急文庫入り口まで施行済	阪急文庫北側入り口手前まで延伸された。	池田城跡公園及び造翁美術館への道案内が簡単になった。(グリーンベルト沿いに進んで下さい。)		中途半端で途切れているので、造翁美術館前まで延伸が必要。経年劣化へのメンテナンス費用		交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課 道路維持費
自主防災会合同防災訓練・リーダー養成支援事業	432	補助金 432	池小校区・自主防災組織連絡会の主催により13自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、また各防災会リーダーの養成を支援し、地域の人たちの防災意識の高揚を図ると共に他地域の人たちとの連携を図る。	13自主防災会が主導し、地域住民参加の防災フェスティバルを実施していた。	13自主防災会連絡会が主催し、避難所運営訓練及びリーダー研修を実施。		初の避難所運営訓練を実施したが問題点を多数抽出できた。	継続実施しレベルアップに心がける。		交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課 道路維持費
地域コミュニティ紙等発行事業	459	補助金 459	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業	提案事業を見やすく・わかりやすく紹介することができています。町会委員外の人にも自分が住んでいる地域の様子を知ることができる		身近な情報紙として評価されつつある。又他校区の方からも高い評価されてきている。	アンケートを実施したが芳しい結果ではなかったため、講評も含め市民ニーズを吸い上げ、再度参加を促していく必要がある		自主防災組織が合同で訓練を行い、地域の防災活動に大きく貢献したことを評価する。災害発生時の連携等を期待する。	危機管理課 自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	858	補助金 858	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・市立池田会館内に設置(平成23年度から) ・専属女性事務員1名、男性会員2名で運営。	・継続運営中	・長年の関係書類の保管がほぼ完璧である。		移転費用の積立。		親しみやすいレイアウトで作られている。写真なども多用されており、更なる情報の充実に期待。	政策広報課 自治振興費
10周年記念事業	532	補助金 532	地域コミュニティ推進協議会も10年目を迎え、更なる進歩のため、今までの実績を市民に認識していただくことと合わせ、地域コミュニティ推進協議会のPRを目的としたイベントを行う。	地域コミュニティ推進協議会の発足10年、この団体や事業をどの程度、認識して頂けているのかが明確ではなかった。	多くの市民にご参加いただき、更なるコミュニケーションを図ることができました。地域コミュニティ推進協議会を広くPRすることができました。		当日行ったアンケートにより、地域コミュニティ推進協議会が行った事業を知らない方もたくさんおられた事や、知名度の低さを再認識することができた。多くの応募があり、運動に興味のある方が多数おられることを確認できた。	雨天の場合の準備日を設定することも考えた方がよい。		今後の拠点のあり方、事務局のあり方については、協議会としての方向性をきっちりと考えていってほしい。	地域分権・協働課 自治振興費
「ちいさな絵本館」推進事業	1,400	補助金 1,400	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実(蔵書・イベント・情報発信等)を図り、子どもたちの豊かな成長を応援する。	創設8年目を迎えた継続事業。年間スケジュールに基づき子育て支援が継続されている。	来館者数も3,500人/年前後で固定化してきた。 蔵書数3,000冊を越えた。		幼児連れの利用に特化されつつある。(リピーターが多い)貸し出しによる効果。(家計・時間・絵本に接する機会増など)子育て支援に寄与している。	開館日を増やすこと。(特に需要の多い土曜日の午後、日曜、祝日) ホームページの閲覧数の増加を図る		絵本の読み聞かせを通じて、池田小学校区の子育て支援の場として根付いている。ホームページの更新や地域情報誌への情報発信により、利用者が身近に感じられるよう周知している。引き続き利用ニーズを把握し、更なる活動を推進し、更なる活動を推進し、更なる活動を期待している。	子育て支援課 自治振興費
MTPフェスティバル支援事業	430	補助金 430	中学校関係者が中心となって進める住民交流の事業を支援する。夏と秋の2回、地域の子どもから大人までが楽しめる催しを開催する。	MTPフェスティバル・平和のつどい共に継続実施している。中学生中心の初めての事業実施。	池田中学生主体の催しとなった感が強く感じられた。地域の催しも紹介された。	・中学生諸君に主体性を持って参加することの喜びを与えたのではないかと。 ・同一校区内に居住していながら知らなかった他地域の催しに接することができた。		今後はフェスティバル型を廃し、別の型で生徒主体で行える事業を考える。		フェスティバルの運営に生徒が関わることで地域住民や小学生、教員の子ども達と交流を深めることできた。10年の節目でフェスティバルを終えることになるものの、継続して生徒が主体的に活動できるような新規事業に期待したい。	教育政策課 自治振興費
キッズランド支援事業	104	補助金 104	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用している用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	・平成28年度に支援を実施したが補充できなかった遊具の備品が激しく数も減っている。	・ソフトバレーボール 10 ・ドッジボール 10 ・パドミントン 10 ・ビニールバット 20 ・ソフトビニールボール 20 ・オフトビ 22 を購入	・遊具の取り合いが少なくなった。	・子どもたちに大切に使用するよう、使用後の整備等を通じて指導していく。		キッズランドで使用している用品及び教材を購入したことにより、子どもたちが遊具を取り合うことなく充実した活動を展開することができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

市民レクリエーション大会事業	400 行事報償金 400	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ愛護の向上に伴う健康づくりを目指す。	・継続して実施している。	・子どもの行事とちあひ参加者は1,000人強にとどまった。	・地域のつながりの強化。 ・他地域の人達との交流。	地域によってこどもの数が極端に差があるので対抗競技のルールの抜本的な見直しが必要。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	7,847	事業提案限度額 7,847千円 次年度繰越金額 0千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	236	電気使用料 36 設備保守点検委託料 200	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。今後の課題として池田市警察と協議を詰めていきたい。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	協議会の念願であった事務所兼コミュニティサロンが開設された。協議会員にとっても、真に地域の拠点となるよう、各種団体等とも連携をとりながら、しっかりと運営している体制を整えていきたい。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費
地域内会館備品整備事業①(渋谷会館)	60	庁用器具費 60	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	設置されている和机の損傷が激しく危険であり不便であった。	快適で使いやすくなった。	安全で使いやすくなり会の準備・進行がスムーズになった。	今後も公共施設の備品の運営・維持・管理に尽力していきたい。			会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課共同利用施設管理費
地域掲示板設置事業	2,256	修繕料 1,750 補助金 506	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。また既存の掲示板の補修を行う。	地域掲示板7台について、あまがらして面紙を使うタイプだったので掲示物が飛んできていき作業が不便であった。	ガラス戸でマグネットの掲示板7台を設置した。	ガラス戸でマグネットの掲示板を設置することにより、掲示する人も楽になり掲示物が風雨にさらされることがなくなった。	掲示板を定期的にチェックし、維持管理に尽力していきたい。			掲示物が飛んできて面紙が破れるなど、地域住民の安全に配慮すること、多くの方の安心感を得ることが出来ること、今後の安全意識の向上に努めていく必要がある。今後については、救急車を呼ばば5分以内に到着する地域であることから、設置の是非を考えていきたい。	地域分権・協働課自治振興費
AED管理事業	307	器具費 297 消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体1箇所(南畑会館)の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、突然の疾病や事故に備える。住民には救命講習の受講を呼びかけ方々に備える。	南畑会館のAED本体と、他の備品の使用期限が来ていた。	南畑会館のAED本体の入れ替えを行い、他は必要な備品の交換を行った。	使用期限を遵守し必要な時期に手当てをすることにより、住民の安全安心な生活に貢献している。	AEDは引き続き適切に管理していくが、救命講習会などを進めて、より一層の安全意識の向上に努めていく必要がある。今後については、救急車を呼ばば5分以内に到着する地域であることから、設置の是非を考えていきたい。			健康増進課保健衛生総務費	
道路安全対策事業	126	修繕料 126	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	畑1丁目に5差路があり2つしかカーブミラーがないので私道に対しての危険を回避できなかった。	私道ではあるものの、地域住民の安全のため、3つ目のカーブミラーを設置した。	今まで死角だったところが見やすくなり、地域住民がより安全に暮らせるようになった。	今後も地域住民の安全に対応していきたい。			交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課交通対策費
秦野小学校スポーツ器具等支援事業	845	校用器具費 845	秦野小学校の体育館のバレーボール器具及び吹奏楽部の楽器の支援をし、地域内の入札と子供たちが安全で使いやすい備品を使用できるようにする。	バレーボール支柱が重く老朽化していており運搬が難しい。小学校のチューバが壊れていて替えがない。	カーボン製のバレーボール支柱とチューバを購入した。	軽い支柱を購入したことにより運搬が楽になり危険を回避することができるようになった。チューバを購入したことにより壊れる心配が軽減された。	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子供達の健全な育成に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。			老朽化した備品を再整備することにより安全に体育活動を行うことが可能となった。また、使用可能なものを活用することにより、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課学校管理費
地域コミュニティ紙等発行事業	420	補助金 420	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」を写真をより多く取り、地域での認知度は高まり協力者が増えている。	年3回発行することが定着してきたこともあり、地域での認知度は高まり協力者が増えている。	わかりやすい紙面づくりは好評で関心や認知度も上昇している。地域での認知度は高まり協力者が増えている。地域での活性化につながっている。	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の委員の募集も含め、啓もう活動に努めたい。			写真が多く楽しいレイアウト。紙面の配色も統一されており見やすさを意識していることと評価。	政策広報課自治振興費
事務所コミュニティサロン開設事業	963	補助金 963	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るための施設を開設する。	地域の拠点がなく、会長の自宅が事実上事務所となり、会員も含めPC・プリンター、電気代等が自己負担となっていた。拠点がなくしてコミュニティが何をやっていくか具体的に理解してもらえなかった。	会長、会員の自己負担が多少は削減された。毎週日曜日に開放することにより地域の方々の来訪がありコミュニティについての説明ができるようになった。	会長、会員の自己負担が多少は軽減でき、地域住民への情報発信が円滑に行えるようになった。	以前の状態で借りたので使い勝手が悪いので、整備・改善し利便性を高めたい。事務所の開放日数を増やし地域の皆さんへの使用頻度を高めたい。			早く地域活動の中心となるよう、周知方法や開催日数等、会員の負担が大きくなりすぎないように留意しながら、運営いただきたい。	地域分権・協働課自治振興費
地域内会館備品整備事業②(南畑会館)	100	補助金 100	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	会館の物品を置くスペースが少なく、備品の管理が不十分であった。	キャビネット2台、棚2台を設置した。	キャビネット・棚を設置したことにより、備品の整理が改善され管理がスムーズにできるようになった。	公共施設の備品の運営・維持・管理をより一層充実していきたい。			会館の利便性が向上したものと評価。整備した備品については、地域での管理の徹底が必要。	地域分権・協働課自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	80	補助金 80	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品入れ替えをしている。地域の催しの写真なども紹介した。幼稚園の作品展示も継続的になっている。	会員の負担も軽減されスムーズに運営が行われている。地域事業の発信・住民の作品展示・地域イベントの写真などを多く展示し、広報活動に努めた。幼稚園、子ども会などの展示も多く好評である。	毎年、新しい作品が増えている。認知度がさらにアップしている。通行人の方にもよく見ていただいている。	作品集はまだ必要と感じている。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。			地域の広報に寄与しているものと認識。鍵の管理も兼ね、地域での管理を徹底していきたい。	地域分権・協働課自治振興費
校区盆踊り大会事業	200	補助金 200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。	盆踊りも増加している。盆踊りの習得を促進するため小学校の体育館で2回練習会を行った。広いグラウンドでいい会を行うことができた。	盆踊りを継続的に実施することにより、地域の親睦が図れ子供達の参加率も上昇している。練習会は好評で盆踊りの参加率向上に貢献している。	盆踊りの練習会を増やし踊りの習得率を高めて今後も開催・運営を支援していきたい。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
地域イベント活性推進事業	60	補助金 60	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	秦野小学校の耐震工事のため、あおぞらdeはたのフェスタは渋谷中学校で行った。テントを購入し天板を軽いものに入れ替え、備品が拡充・整備された。	秦野小学校の耐震工事が終わったため、秦野小学校体育館・あおぞら幼稚園の園庭と遊戯室で開催した。備品の拡充にも努めた。	あおぞらdeはたのフェスタを秦野小学校に展ったため周辺住民への認知度がより高まった。備品整備により、地域行事の円滑な活動に貢献できた。	今後はあおぞらdeはたのフェスタを秦野小学校で行う。地域住民の参加率の向上に向けてさらに努力していきたい。備品の維持管理の精度を向上させていきたい。			事業提案に基づき適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金 80	地域と学校が一緒に花を育て緑化を進め笑顔のある地域にしたい。	今年で5回目の事業。渋谷中学校・地域の各団体と連携して行った。	保護者・保護者OB・教職員・地域の方が参加し、およそ20回の活動を行い、菊づくりを中心に草花の栽培に対して支援した。苗・土・肥料・鉢・プランターなどの用具も揃えることができた。	咲いた菊を中学校の文化祭で展示することにより来訪者を和ませた。あおぞらdeはたのフェスタでも展示・販売を行い、認知度はさらに高まっている。また各会館・施設にも分けて喜ばれた。	今後も継続的に支援していきたい。			今後も地域と学校が自然を通して、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	公園みどり課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

自然学習講習会・昆虫育成事業	100	補助金	100	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	自然学習講習会、カブト虫養育場での幼虫掘り起し、腐葉土の入替を行った。	雨のため渋谷会館で育成教育を行い幼虫を掌に載せる体験をし、雨が上がったため渋谷公園で幼虫掘りをした。天候のせいか幼虫は25匹ほどしか見つからなかった。腐葉土の入替を行った。	初めて幼虫を掌に載せた子供もおり貴重な体験になったと思う。幼虫を掘り起し自宅で幼虫育成観察日記を作成することにより自然の恵みを学習できたと思う。養育場の土の入替をすることにより、土壌の清潔さが保たれる。	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。	カブトムシを通じ、子ども達の自然学習のよい機会になっている。	公園みどり課 自治振興費
楽野地域うたいっばい運動支援事業	180	補助金	180	楽野小学校区の子どものための聖歌隊が向の中を練り歩き、楽野小学校でコンサートを実施、歌うことにより学年を超えて友情の絆を深め、地域内の交流を深める。	2回目の実施で練習や会場設置は順調に行えた。地域への広報活動、特にキャロリングの進捗について改善を行ったので好評であった。	公募で集まった老若男女の団員が地域をキャロリングして小学校の体育館でもコンサートを行い、地域交流を図った。体育館の舞台を横に使ったことは好評であった。	事業を継続実施することにより、定着しつつある。うたいっばい運動に対する地域住民の理解も深まり音楽文化の普及に貢献できてきている。	団員の拡充と広報活動の強化を図りたい。歌うことによりみんなを笑顔にできるよ、今後も継続して支援していきたい。9月に募集して12月に終了するため今後は持続性を持たせていきたい。	教育センター 自治振興費	
キッズランド支援事業	30	補助金	30	楽野小学校で開設された「楽っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具等がまだ足りない。古いものの入れ替えができない。	文具や道具等が増えた。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだ文具等が足りない古くなっているので、継続的に支援する必要がある。	教育センター 自治振興費	
地域内子ども会等活動支援事業	500	補助金	500	校区内で子ども会等の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	熊勢の自然の家で野外炊事を行い、火をおこしたり食事を作る大変さを体験した。皿の絵付けを行った。	子ども会だけを対象にするのではなく広く地域の方々に参加を呼びかけ、楽野小学校のグラウンドで雪遊びを行った。子ども会対象には教学の森で野外炊事を行った。	長野県栄村から10tダンプ3台の雪を運んでもらい雪遊びを行ったことにより、普段雪を見ることのない子供たちが自然を体感することができた。野外炊事をしたことにより火おこし等自然に対応する力が少しは蓄えられたと思う。子ども会相互の知識の共有を図り親交を深めることができた。	バス代、入場券の高騰に対応して引き続き支援していきたい。	教育センター 自治振興費	
グラウンドゴルフ実施事業	234	補助金	234	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	地域住民が親睦を深めるためグラウンドゴルフ大会を行う場合、市所有のため使えないことがあった。	グラウンドゴルフ用品を5セット購入した。	グラウンドゴルフ用品を購入したことにより、いつでも大会を行うことができるようになった。	各世代に応じたスポーツを通じたコミュニケーションを普及させていきたい。	生涯学習推進課 自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	240	行事報償金	240	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	地域の協力も受け、運動会の準備を行ったが、雨天中止となったが協力者の親睦会を行い交流を図ることができた。	小学校の建て替え工事が終了したため、元の広さで運動会を行うことができた。	地域・子ども会の協力により、交流を図ることができた。	自治会、子ども会入会者の減少は止まらない。今後は地域住民の参加率向上を図り、子ども会等の発展につなげていきたい。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	7,117			事業提案限度額 7,700千円 次年度繰越金額 583千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100						各都会でまとめられたものを役員会で決定する。			地域分権・協働課自治振興費
AED管理事業	316	器具費 297 消耗品費 19	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体(箇所「きたてしまプラザ」)の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	きたてしまプラザ 住吉会館に設置されている、AED機種の本体 部品の使用期限が切れるので交換を要した。緊急使用時誤作動がないように本体及び部品使用期限が来た部品交換必要性があった。	高齢者等利用の多い、きたてしまプラザ住吉会館に設置し、地域住民の安心器材として実物を見ることが出来、安心意識も高まっている。	設置場所を知り、現物を目にする事が出来るようになり安心感がある。	医療機器なので使用期限があるので交換等は必要と考えたが本体等の交換となれば高価になるのを維持管理については市で管理をお願いしたい。 設置されているが使用すると不安が残る。今の所屋内に設置されているが実際は屋外に設置されていることが望ましいと思う。 使い方の講習等も定期的にする必要がある。	各都会でまとめられたものを役員会で決定する。	拠点であるきたてしまプラザを中心に、多くの継続事業を実施されているが、一で、多く市民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置、管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課保健衛生総務費	
街路灯強化事業	433	電気使用料 19 修繕料 414	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	北豊島地域に於いて、道路照明が不十分で道路狭小など道路交通、防犯上問題があった。	道路照明を設置並びに灯器のリニューアルにより、道路狭小なところも防犯上 明るくなり安全になった。	道路照明の設置ならびに灯器のリニューアルにより夜間も明るく通行でき、防犯上も安全になったと地域住民からも喜ばれている。	今後も地域から要望もお聞きし、設置必要のある場所については年次ごとに提案設置を進めていきたい。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課交通対策費	
道路安全対策事業	1,660	修繕料 1,660	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	北小校区 周辺道路では十分な歩車分離が出来ている道路が少なく、又通過車両も多く、通学時の安全安心確保が保持できていない。	北小児童通学路の指定受けている道路等の路側にグリーン塗装をした。	通学路の路側にグリーン塗装をすることによって児童 車両運転者ともに注意を喚起することが出来た。	予算があれば短期間で指定通学路のグリーン塗装を完了したいが毎年計画的に実施していきたい。 地域における登下校の児童の安全確保はもろろですがこれらを迎える高齢者社会ハンデキャップのある人への対策として安全帯や遠慮表示や点字ブロックの設置も考えていきたい。		交通安全性の向上に の効果をあつたと考えている。	道路・河川課道路維持費	
防災訓練開催事業	10	補助金 10	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人が集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、予想される 東南海地震 地球温暖化に伴う異常気象による局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	池田市危機管理担当者に講師をお願いし、平成29年9月に北豊島地域の幼児から高齢者(約50名参加)による防災講習を実施した。	防災に対する認識が深まった。	防災は地震 大雨 火災等 様々な事象あるのでそれぞれに合った防災講習を行ってきたい。		防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	696	補助金 696	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	これまでと同様に隔月に広報紙を発行し、地域住民との情報交換を媒体とする事を目的にしました。(5回/年間)	平成29年度も目標通り隔月に広報紙を発行することが出来ました。	地域のコミュニティ紙として親しまれて、定着し、協議会の活動状況を広くPRが出来ている。	推進協議会からの広報紙としての側面のみならず、住民からの投稿が掲載できる様、努力していきます。 今後も広報紙を活用し、活動状況、イベント等をPRして行きたい。		年5回の発行でタイムリーな情報が、わかりやすくまとめられていると評価。	政策広報課自治振興費	
きたてしまプラザ活用事業	2,293	補助金 2,293	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教室、子育て支援活動を行う。また、機械室を整備し遊いの地炭茶コーナーの設置準備を行う。	コミュニティ推進協議会の拠点 又 各種文化教室開催場所として十分に活用されています。(利用回数及び参加者1,477回 15,243人 教室224回 4,570人)	今後も積極的に利用していただき効率的な活用を努めます。	当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。 本年度元空調室を談話室(喫茶室等?)に改装致します。高齢者、地域の方々 なども気軽に利用できる談話室にしたいと考えております。		前年度に比べると、利用回数が2割増加しており、北豊島地域の拠点として積極的に活用され、地域住民への認知度も高いと考えます。また、談話室の改装後、更なる利用者数の増加に期待したい。	資産活用課自治振興費	
きたてしまプラザまつり事業	35	補助金 35	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	プラザを利用している各教室の発表の場や、プラザを利用する地域の住民が一同に会する機会が少なかった。 又前年まで各サークルの発表が中心であった。	お互いに分らなかつた活動状況が分かり、運営の参考にする事が出来た。 サークルの枠をなくし、新しいスタイルの第1回目として課題が残った開催であった。	普通会話することのなかつたご近所同士がゲームやカラオケを通してつながりを持つことが出来た。 交流を通じ、池田の文化 地域の歴史などにも触れ又食事やゲームの時間も世代を超えて楽しんだ。	マンネリ化しない様に新しい企画を工夫していきたい。 前年度まで行われていた催しの中で人気のあったイベントは再度取り入れ又新しいイベントと調和させて開催する様な企画が望まれる。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
地域行事活動促進事業	175	補助金 175	日本の伝統行事のまつり、盆どり等住民のコミュニティが等潤になっている昨今住民の対話活動を計るべきである。又 地域活性のために何か協力する事が行われるようになっていた。	まつり 盆踊り等 人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめられる所もあつたが少額ではあるが助成金を出すことで住民対話も高まり少しずつであるが活気ある行事が行われるようになった。		地域の行事に参加者も増え、明るく より良い街づくりができると思う。	地域 場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの助成金支払先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
環境美化ウォーキング事業	39	補助金 39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを巻き地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域別に分別し、ゴミ等を収集しながらウォーキングを通じ、「ゴミの捨ててある場所とゴミの分別」を実施しゴミ減量美化活動と健康地域交流を行う。地域住民と協力しながら、ゴミを少なくする為の啓蒙活動を強化する。	7/8天神1丁目 荘園1~2丁目、3/10豊島北1~2丁目、2回実施 「ウォーキングで健康に」散歩しましょう！ 「ゴミはどこにあるの？」探しましょう！ 「ゴミ退治」ゴミを拾い掲示板を設置します！ をモットーに 環境美化活動を継続することによる地域の変化(良化)を肌で感じ自主的活動拡大を拡大する。ウォーキングに目的を持ち、気持ち見ると目の変化 四季の変化を感じ、地域の新たな一面を見つける。小学生の参加により継続性を期待する。	「ウォーキングで健康に」散歩しましょう！ 「ゴミはどこにあるの？」探しましょう！ 「ゴミ退治」ゴミを拾い掲示板を設置します！ をモットーに 環境美化活動を継続することによる地域の変化(良化)を肌で感じ自主的活動拡大を拡大する。ウォーキングに目的を持ち、気持ち見ると目の変化 四季の変化を感じ、地域の新たな一面を見つける。小学生の参加により継続性を期待する。	ゴミ発生分析結果の活用方法、ゴミ発生撲滅環境改善と健康を自覚することが課題であり、地域住民と共有できれば良い。 子供から高齢者まで楽しく参加していただく環境づくりの継続を心掛ける。		幅広い年齢層の参加による広範囲(2km)に及ぶ美化活動として評価できる作成した看板を効果的な啓蒙に繋がっていただきた。	環境政策課自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいエコクッキングスタイルの講習会を開催する。	「第5回エコクッキング」冷蔵庫に残っている食材 調味料はないでしょうか？いろいろな工夫でムダをなくしましょう！（キッチンからできる地球への思いやり）をテーマに毎日の食材調達から 食事 後片づけ環境に配慮する。家計に優しい（エコノミー）これからのクッキングスタイルを先取り継続と浸透を目指す。	9/31に実施（1回/年）参加者30名きたてしまブラザにて3名の野菜ソムリエを講師に迎え、「旬のナス」を食べつくそう「果物（イチジク）の食べ比べ」「エコクッキング講話」と今日からできるエコクッキングの実践。幅広い年代（小学生～80歳代）が楽しく学習し料理とイチジクの知識を習得。	（食材の調達～調理～食事～後片づけ）まで一貫した、エコロジーを実践できた。日頃何気なくやっていることであるが新鮮な感覚を自然に身につけてもらえた。	家庭でも季節を味わう配慮をして貰う事を心掛けて貰う。食材を調達・・・近い産地の食材を近くの店舗で調達。調理・・・油使用を控え加熱 冷却しないメニューの検討。食材を使い切る 食事時・・・調味料を控え食べ残さない。後片づけ・・・洗う前にナフキン等で油分を拭き取る。とぎ汁やゆで汁を有効に使う。季節感を考慮。	ヤサイソムリエを講師に招くなど工夫をこらした企画・運営ができており評価できる。楽しく世代間で活動しながら、食品ロスなどの環境問題も同時に考えてみる等していただきたい。	環境政策課 自治振興費	
地球にやさしい思い出作り事業	60	補助金	60	廃棄天ぷら油を利用して、凝固剤等で固めたエコキャンドルを作成・点灯し、エコキャンドルフェスタを実施、住民の憩いの場づくりを行う。	「みんなで広げるエコキャンドルの輪」廃油の再生利用を目的とし、多くの参加をいただき廃油ロウソク作りを体験し・・・準備～キャンドル点火～後片付け（分別回収を含む）北豊島小学校とのコラボにてクリスマスイベントを計画。今回は図柄を公募した。	12/23に第3回を実施 参加者 30名 廃油リサイクルによる「エコキャンドル」みんなで広げる地域の輪 ロウソク600本で ふくまるくんと虹（公募図柄）に点灯。追加 イルミネーションも点灯制作したロウソクは参加者が持ち帰り楽しんでもらえた。	楽しい時間を共有し「人 文化 自然」のコミュニケーションをより強くして どのようにすれば地球環境を見直すことを日常の中に還元できるか考えていただく感触は掴めたかと思えます。廃油を活用したロウソク作りで楽しさを体感していた。	今回1,000本のロウソクを作る予定であったが未達成に終わった。今後は大勢の参加者の協力と理解を得る努力が必要。開催時期 点灯時間を考慮する必要がある。今回は園芸高校とのコラボを相談中。火気厳禁注意 やけどなどのけがに注意が必要。	廃油再利用によるリユース啓発と、コミュニケーション活性化に貢献する事業と認識。活動の輪を広げるため、活動の意義を広く周知するなどの取組を進めていただきたい。	環境政策課 自治振興費	
公園花いっぱい整備事業	60	補助金	60	地域の子も達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。	豊島北2丁目公園は「地域の高齢者休憩所」幼い子どもたちのおそび場 若いお母さん方の憩いの場を提供し、多くの地域の方々 会員より環境維持を行っています。	園芸高校の先生 生徒さんの指導の元、会員の管球と花壇に季節にあった草花を植替え憩いの場として維持管理を実施。	季節にあった花を植える、鑑賞する、だけではなく花の植え育て方等の実地講習を受け、花を愛でる 人の心に潤いを与え、子供たちが安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれている。	年2回の花植替え実施に園芸高校の先生/生徒さん 会員住民の皆様との協力を今後もお願いしていきたい。花壇の維持管理、時折花泥棒の被害があるので注意していきたい。来期に当公園に照明を設置し、環境改善に努めたい。	豊島北2丁目公園の花壇の手入れ、管理を園芸高校と協働で実施しており、憩いの場としても活用されている。	公園みどり課 自治振興費	
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	194	補助金	194	バスケットボール等を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに地域住民の憩いの場を提供する。	多くの地域住民 子供たちが安全に遊べる場 青少年がバスケットゲームを通じてコミュニケーションの場としてコート及び遊具の維持管理。	バスケットコート ゴールネット 遊具の安全チェックをし、月に1回の会員による清掃作業 開閉時間管理等 整備された環境を維持できている。	土日には多くの住民 青少年がバスケットを楽しみ、健康増進に役立っている。	完成後経年劣化進み、コート シュート板等の傷みも激しく、平成31年度に全面改装を考えている。	バスケットコートを含めた公園の一部管理を実施することによって、良好な状態で保たれている。	公園みどり課 自治振興費	
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	高齢の人口が増加し、少しでも認知症の発症を遅らせる様に地域医療包括センター（養病院）に相談し、住民向け講座を開催する。	認知症予防講座（2月25日）の開催で50名の参加者あり、関心がある事を実施、シリーズで開催の準備に取り掛かる。	認知症に関する講座は2回目でしたが参加者が多くなり、効果は望めると確信した。	健康年齢を少しでも健康が保てる様に健康体操等も取り入れていきたい。	地域コミュニティによる講座であるため、住民の主体性が強く、参加者も多い事である。また、健康体操等を取り入れることで単発の講座だけでなく、継続的な介護予防の取り組みとなれば良い。	地域支援課 自治振興費	
子育て支援事業	743	補助金	743	継続事業ですが当地域には以前から未就学児に対して子育て施設がなく、公的支援のない中、子育て中の母親より子育ての仲間グループ設立の要請でロケットキッズが設立され、当協議会が事業として支援をする。	木田弘子氏中心にプラザ内の一室（ふれあいルーム）を開放し、テレビ等によるシアター劇場 童話の読み聞かせや市より支給のおもちゃ等での遊び、秋の運動会 クリスマス会 夏の水遊び等イベントキッズが運営され、平成29年度未就園児とその保護者3,446名の参加がありました。子育ての悩みなど話し合え、好評を得ている。指導員有償ボランティア制度を導入し、運営しています。	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育ての悩みなど共通した話題が出来、参加者も年々増えつつある状況で事業効果は上がっていると思います。個人相談室や3歳児中心の『ひびよクラブ』等開設	母田氏を中心に事業活動を展開しているが内容から見て有償ボランティアに切り替えたが限度があるので検討を加えたい。出来れば何かの形で市の支援をお願いしたい。	子育て支援課 自治振興費			
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金	150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	事業報告書の通り	事業報告書の通り	事業報告書の通り	事業報告書の通り	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	7,014			事業提案限度額 9,714千円 次年度繰越金額 2,700千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
青パト隊パトロール活動事業	275	修繕料 63 自動車重量税 7 補助金 205	青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青パトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青パト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができています。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	グリーンベルト設置や植樹を地域実施事業として行うなど、ハード整備についても協議会が積極的に取り組んでいるものと、またくれは祭りの補助のあり方についても一定の見直しを期待する。	危険管理課 一般管理費/自治振興費	
地域内会館設備改修事業	521	修繕料 521	娯楽・室町会館のトイレを和式から洋式に改修整備を行い、利便性を向上させる。	地域内の共同利用施設「娯楽室町会館」の2階トイレの洋式化。利用者からの要望があったので購入した。	共同利用施設「娯楽室町会館」トイレの改修することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した施設を改築することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。		会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費	
地域内会館備品整備事業	559	庁用器具費 379 補助金 180	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	1. 地域内の共同利用施設「娯楽室町会館」のガスオーブンが老朽化しているため、利用者から買い換える要望があったので購入した。 2. 地域内の施設「宇保会館」「呉服会館」のガスコンロが老朽化しているため、利用者から買い換える要望があったので購入した。 3. 地域内の施設「呉服会館」の音響設備がないため、利用者からの要望があったので購入した。 4. 地域内の施設「呉服会館」の洗浄便座が整備されていなかったため、利用者からの要望があったので購入した。	共同利用施設「宇保会館」「呉服会館」「娯楽室町会館」の老朽化した備品を新規に買い換える、改築、整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改築、整備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。		各会館の実情に応じた、利便性が向上したものと評価。特に補助金で整備した備品については、今後地域での管理の徹底が必要。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費/自治振興費	
地域掲示板設置事業	234	修繕料 234	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内(室町)にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができ、今後も広報活動の充実を図る。		地域の自治会とも連携し、広報に寄与しているものと評価。地域内の掲示板基準を定めるなどの対応をお願いしたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
道路安全対策事業①	108	修繕料 108	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、死角が解消され安全性が向上した。	これまで見えにくい人や車の往来がカーブミラーの設置で確認でき、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が点在しているため、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。		交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課 交通対策費	
街路灯強化事業	84	電気使用料 8 修繕料 76	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができることの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。		街路灯の強化により、地域内夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課 交通対策費	
呉小吹奏楽クラブ支援事業	303	校用器具費 303	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。即座の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器(トロンボーン)を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。		使用可能な楽器の一層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課 学校管理費	
合同防災訓練事業	150	補助金 150	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、昨年から8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	雨天のため呉服小学校の体育館を活用して、合同防災訓練(8自治会)を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と考える。		校区単位での防災訓練の実施により災害に備えた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	514	補助金 514	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を深めている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告を周知することにより、協議会の活動について理解が得られた。	結果、校区に居住する住民から協議会への参画希望が増加し、特に若い世代の人達からの新入会員が得られた。	今後も様々な内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。		文字が大きくやわらかい雰囲気のないアウトで見やすいと評価。校区の人口・世帯数の掲載もユニーク。	政策広報課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	600	補助金 600	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティの拠点として、地域活動等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			地域分権・協働課 自治振興費	
地域イベント備品整備事業	500	補助金 500	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域内のイベント備品を利用者からの要望があったので購入した。	テント、テーブル整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	地域のお祭り、イベントに貸し出すことにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	必要なものを厳選して、購入したい。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
くれは祭り開催事業	800	補助金 800	くれは祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれは地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	地域内の各種団体の協力を得て、人形劇をはじめ低価格模擬店等で盛り上げていただき、地域内のコミュニケーションの充実を図ることができた。	今年度は春に呉服会館で開催し、地域内の幅広い年齢層に参加してもらい、祭りを盛り上げることができた。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
リユース活動事業	30	補助金 30	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書き忘れてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。また呉服小学校体操服のリユース	とても好評で、来年もぜひ聞いてほしいという言葉を頂いた。先生方にも高評価でした。	当日手伝って頂いた方に、コミュニティ推進協議会に参加登録していただいた。	大会議室開催など検討したい。		特に子育て世代に有効なリユース事業である。今後は、対象世代や開催方法を工夫し利用者を増やしてほしい。	環境政策課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

呉服小学校花いっぱい運動支援事業	180	補助金	180	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた。	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。
地区福祉活動支援事業	100	補助金	100	地域の地区福祉委員会の実施するふれあいの集いの支援を行う。	呉服校区ふれあいの集いを支援し地域の人達との繋がりを深め地域の活性化を図る。	地区福祉内部予算のみで開催できたので未使用	もし足りない時の安心材料になったとのこと	来年度継続しない。
道路安全対策事業②	156	補助金	156	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないか気がなっていた。	交通事情の激しい危険な道路にグリーンベルトを敷設したことにより、交通事故から子ども達を守る事ができる。	グリーンベルトの設置により、登下校する子ども達を安全に誘導できる事により、交通事故を回避できる。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。
地域植樹事業	162	補助金	162	地域の景観を保つため、歩道の木が枯れて無くなってしまっているところに植樹を行う。	呉服小学校裏歩道並木道の並木スペースが空いたままになって雑草が生えるだけだった。	並木道の空きスペースに植樹した。	樹木がそろって見栄えがよくなり地域の住民からも賞賛された	緑を増やしてゆきたい。
ＭＴＰフェスティバル支援事業	150	補助金	150	池田地域コミュニティ推進協議会と協働で、ＭＴＰフェスティバルの支援を行う。	池田地域コミュニティ推進協議会と共に、ＭＴＰフェスティバルの支援を行う。	小学校区から中学校区へと範囲が広がり、また、他の地域コミュニティとの交流も活発にできた。	ＭＴＰフェスティバルに当協議会が参画することでコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事への報奨金も検討しながら、フェスティバルが活性化しよう努める。
キッズランド支援事業	54	補助金	54	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具用品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具用品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	今後も支援していく。
ウォークラリー事業	50	補助金	50	地域の子ども会や各種団体と協働でウォークラリーを開催し、呉服校区の子どもや幅広い世代間のつながりを深める。	呉服校区の子ども達と地域の人達との繋がりを深め地域の活性化を図る。	参加希望者なし本年度開催なし	グラウンドゴルフとイベント保険が共通のため保険料のみ発生	来年度継続しない。
グラウンドゴルフ実施事業	70	補助金	70	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	年4回のグラウンドゴルフ大会を開催することにより、地域住民同士のコミュニケーションが図られた。	参加者は会を重ねるごとに増加し、グラウンドゴルフを通じてのコミュニケーション作りは効果あり。	若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金	350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化しよう努める。
計	6,050			事業提案限度額	12,036千円	次年度繰越金額	5,986千円	

今後とも地域と学校が自然を通じて、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	公園みどり課 自治振興費
—	高齢・福祉総務課 自治振興費
交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課 自治振興費
植樹により、より良い景観の確保ができたと考ええる。	道路・河川課 自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会の評価と同じ。	教育政策課 自治振興費
キッズランドで使用する遊具用品を整備したことにより、子どもたちが遊具を取り合うことなく充実した活動を展開することができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
参加者無しのため、開催できなかったことは残念である。	生涯学習推進課 自治振興費
今後ともグラウンドゴルフを通じて、交流・協力作りを行ってほしい。	生涯学習推進課 自治振興費
事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考ええる。	生涯学習推進課 社会体育振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への普及及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	1,200	修繕料 1,200	安全で安心な暮らしの実現に向け、さらなる街頭犯罪件数の減少を図るため、防犯カメラを設置する。	一部死角になっていたところ、及び、犯罪者の逃走経路抜けモレが有り。	少しづつではあるが、犯罪者の逃走経路の減少及び、設置していると言っただけで、犯罪者の逃走経路抜けモレがなくなった。	設置個所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	各家庭の防犯装置の充実（補助）及び関西電力の電柱を活用した防犯設備の設置等、見張り役の増やし方の検討が必要である。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	本年度は石橋北会館のトイレ改修や防犯カメラの新設に大きく提案件を割いて、それぞれの充実を図ったものと評価。また協議会の認知向上に積極的に取り組んでおり、今後のコミュニティづくりと連携するよう期待すること。	危機管理課 自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	309	電気使用料 59 設備保守点検委託料 250	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になっていたところ、及び、犯罪者の逃走経路抜けモレが有り。	設置個所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目（者）による期間中夏休み/大型連休の見守りが可能となった。	設置個所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	リースのような、安価な設備で、管理費の低減。各家庭への補助/企業の電柱中活用等の検討が必要		継続的経費については理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
地域内会館設備改修事業(石橋北会館)	4,994	修繕料 4,994	石橋北会館のトイレを和式から洋式に、また男女別改修整備を行い、利便性を向上させる。	男子用と女子用が接地しているや和式トイレ器に利用者から使用苦情が寄せられていた。	男女のトイレ個室が区別され、個室も若干でも広がり、便器も様式化されて、明るくなった。	明るく清潔感があり、男女とも気楽に利用出来るようになった。	会館設備（調理室、下駄箱、机、椅子等）に改修要望が多く寄せられており、順次方法を検討する必要がある。		会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費	
AED管理事業	19	消耗品費 19	使用期限の切れるパッドの交換を行う。	期限切れ、及び、バッテリーへの不安あり。	機器への不安解消	緊急時、安心して使用が可能。	幸いにも、殆ど出番がなく、使用方法がわかる経験者（訓練実施者）が減りつつある中、AEDに替わる一番有効な心臓マッサージの訓練回数を増やす及び、訓練が簡単にいつでも出来る機材の設置検討。		共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後とも引き続きAED設置、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
地域防災体制強化等事業①	1,000	補助金 1,000	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災用品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をすべきなのか不明確であった。	組織網の整備及び、緊急時の対応（訓練ではあるが）が出来た。	地域住民及び学校等の協力の基、連携をしながら訓練も出来た。	各種の災害及び時間帯に即対応出来るが、訓練内容（夜間含め）を更なる継続実施する。学校の設備を使用せず、公園等にて何も無い場所でもから吹き出し他可能かやってみる価値あり。		災害時における地域の防災力向上を期待する。併せて必要箇所も備蓄品の配備が実施。災害時の適切な利用を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業②	100	補助金 100	地域の安全と犯罪抑止の為、注意喚起の看板を設置する。	側道から本線へ出るT字路に於いて、特に右方向から自転車他歩行者が見えにくい。又、進路を含め生活道路における、車等のスピードの出し過ぎが危険。	安全ベストを着用し、スピードガンも活用し、車速を計測。何かやっていると、減速及び一旦停止の実施車両が増加。	減速及び一旦停止車両の増加あり。効果あり。	定期的に、安全ベストを着用し、注意喚起も含め、巡回（測定）回数を増やす。又、スピードの出し過ぎがわかる警告等（スピード表示）、減速するよう路面の工夫等何が一番効果があるかの検討が必要。		地域の安全確保に向けた必要に応じて使用及び効果を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	年間各部が行う事業内容を住民にPRすることでコミュニティの存在と役割を知ってもらう為に発行する事業。	年間2回の発行、旭丘と石橋地域がお互いの地域コミュニティの活動内容と地域性を少しずつ知ってもらえた。	紙面を通して地域に必要なニュース、学校と地域のつながり、地域の行事等又「詐欺」に引っかからない等、PR出来た。	地域コミュニティの中の事業が継続型が多い。紙面や報告の記事はかりになる、話題性のあるものを扱いたい。		地域でのイベントや活動など、写真が多く掲載されることによる、話題性を期待していると評価。	政策広報課 自治振興費	
地域内会館備品運営事業	350	補助金 350	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	石橋地域内の各種ボランティア団体が会議資料やチラシを各々がコンビニ等でコピーし、費用や時間ともに負担が大きかった。	会議場所近くにコピー機があり、資料作成時間と決議や改訂事項が速やかに書類配布出来、コピー費用が大幅に軽減された。	各団体の印刷費用、時間が軽減され、より活動が活発に経費や時間がその他の活動に生かされる事が出来た。	当館の設置場所が2階層下の為、印刷音が他部屋に響き近隣の部屋の使用者からクレームを懸念して置場所を確保したい。		共同利用施設の利用者の迷惑にならないよう、対応いただくようお願いする。	地域分権・協働課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会啓発事業	10	補助金 10	石橋地域コミュニティ推進協議会の活動について知ってもらうため、意見箱の有効活用を図る。	意見箱がどこにあるか、存在が薄れている。	意見箱が目立つ様、福丸君シールを作成し、貼り付け、少しは目立つ工夫を実施。	幾分か目立つ様にはなったと思われるが、まだPR不足の感あり。	今後（これからは）事務局を設置し、スマホ/他ITを通じて意見等入手出来る環境を整備する計画（立案）中。		さらなる協議会のPRについて、引き続き検討を期待すること。	地域分権・協働課 自治振興費	
地域行事等活動促進事業	400	補助金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	当事業も地域内の活動が浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかける。安全面に対し照明が暗いとの意見が寄せられて、電気設備や備品の老朽化に苦慮していた。	電気設備時明るく照らすようにケーブルを増やし、電球配置して明るさをアップして安全意識を図り、大きな事故もなく終わった。	各団体間の連携がスムーズになり、協働する参加者が年々増加し、各人間の繋がりが少しずつ太くなった。	槽とケーブルの老朽化対策より安全面の充足を図る必要がある。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費		
地域美化整備事業①	55	補助金 55	美しい街を目指すため、啓発用ポスター等を作成し、地域住民のモラルの向上を図るとともに3ヶ月に1回、地域の清掃を行う。	1) タバコの吸い殻は道路上、溝の中、公園のベンチ横、雑草の中捨てられる 2) 啓発ポスターの破損は、台風後・暴風雨の後が多い。	1) タバコの吸い殻確認出来る箇所を調べた。 2) 啓発ポスターのメンテ、新規掲示は、破損箇所確認後、補修、新規掲示は、了解を貰って掲示	1) タバコの吸い殻イテでは、携帯灰皿配布後の近日常効果あり。その後は、以前のまま 2) ポスターは張り替え完了。見栄え良くなった。チラシ配布後、きれいになってる庭見かける。各種団体も協力できる。	携帯灰皿配布事業は今年度で終了。啓発ポスター新規掲示の協力をえたい。雑草除去キャンペーンは続けて行きたい。		地道な啓発活動の継続により、美化意識が根付いてきているのは大きな成果と認識。今後の活動継続により大きな成果に繋がると期待できる。	環境政策課 自治振興費	
リサイクル活動事業	30	補助金 30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	キャップ回収容器設置場所の増加、回収量増加がほしい。	地域内施設（高齢者）ラ・セゾン、オレンジ地田内に施設増ができて、回収量増加も計られた。	石橋地域コミュニティ活動のPRにつながった。	このリサイクル活動が市内全体に拡大できればと考えるが、スタッフ、運搬、三恵園さん、東山作業さんの処理量を考えていかなければならない。		活動の広がりにより、リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。課題を整理して、今後の成果に繋げていきたい。	環境政策課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

地域美化整備事業②	79	補助金	79	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、地域の幼稚園や小学校と協力しながら花を育てていく。また、宅地周辺の雑草除去を行う。	3) 花いっぱい運動、石橋小学校の3年生全員でプランターに花の苗を植えた。池田警察署の要望で搬送詐欺防止シールを貼った。	3) 花いっぱい運動 プランター配布した所は下記石橋保育所、小学校、中学校、やまばと学園、花鈴21、万寿荘、白寿荘、ラ・セゾン、オレンジ池田、翼老健、交番、郵便局、コンビニ3店舗、西園、能勢、伊丹街道、公園	3) 子供達と花植え続けられよう。保育所、学校関係者、施設等、地域の方々から喜びの声有り。	花いっぱい運動は、石橋小学校の協力を頂いて続けていきたい。	地域の幼稚園や小学校など各施設へ花鉢の配布を行うことにより、地域緑化に貢献している。	公園みどり課 自治振興費
公園整備等事業	68	補助金	68	公園が憩いの場、遊びの場、集いの場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	1) 公園の花壇前年度のまま花壇の周りの大木の実と落葉に毎年苦慮しています。 2) 公園の中の雑草は仕方なし 3) 芝生の第4期維持、防災倉庫前、雑草だらけ	1) 破損していた・ブロック修理・ロープの付け替え・杭の付け替え 1) 春・秋 池田市環境部公園みどりの課から花の苗を頂き植樹 2) 公園の草刈り、月毎実施 3) 公園の第4期目（防災倉庫前芝生の植付け完了）	1) 植樹中を通りすぎりの方々から植え方や、水やり、教えられたり、教えたり、楽しく喜んだり、喜ばれたり。 2) 雑草の繁殖力は凄く、梅雨明けから夏の終わりまでは、月1回では無理 3) 芝生は順調に成長 植え付けた箇所には雑草はえず	1) 花壇は広げたい。 2) 公園の雑草除去は、地域の方々の協力もお願いしたい。 3) 来期は、第5期目トイレの横側に掛かりたい。	公園内の花壇の管理や草刈などを行うことにより、地域住民の憩いの場になっている。	公園みどり課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	170	補助金	170	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。また、交通安全対策として、標識看板の設置を行う。	自転車も軽車両であると言う認識も乏しく、標識の見方及び自転車の正しい操作方法等知識不足である。	幾分か理解できたと思われるが、当日だけでは、翌日以降実施できているかと言うと定かではない。継続訓練が必要である。	即効性は無いが、毎回実施することが必要と考える。又、子供達だけではなく、家族全員の協力が必要であり、特に指導しなければいけない両親（特に母親）、おじいちゃん/おばあちゃんの運転マナーの悪さが目につく。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者である両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導が急務と思われる。他、保険への加入促進、並びに自転車の点検等地域の自転車店様のご協力の基、展開が必要である。	子どもに対して自転車等への認識を深めることができ、事故減少及びマナー向上につながった。	まちづくり・交通課 自治振興費
異学年交流事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	子ども会、PTA、地域の人（校区内にあるボランティア団体）は個々に活動をしているが、共に協働で活動する機会が無く交友が少なかった。	子ども達や若い保護者、地域の人達、高齢者住民が準備会議や事前準備、当日の運営を手助けする機会が増え馴染みになり、子ども達に住民の声掛けを容易にし、挨拶する光景が増えた。	交流事業の認知度が上がり多くの人から協力の申し出があり、多くの人参加して頂き、美味しく、楽しく、可笑しく、参加者全員が楽しい時間が過ぎた、今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多くあった。	実施予定日の変更による内容、季節感の違いを意識して時間工程に中絶みの発生に配慮して、より家族ぐるみで参加出来る事業内容とした。	子ども達や若い保護者、地域の人、高齢者住民等、多くの人参加し、準備や当日の運営、片付け等年代を越えた親密な交流が図られた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。	当事業も地域住民も市民運動会として毎年10月第2日曜日に開催されることが浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかけた。	参加人数が猛1,000名以上の大盛況で大きな事故もなく終えることが出来た。	石橋校区スポーツ振興会を中心に各団体間の連携がスムーズになり、協働する参加者が年々増加し、各人間の繋がりがもたくなった。	当運動会も長年継続的に開催されているがプログラム種目に新鮮さを図り、より参加意欲を盛り立てたい。スポーツ推進委員の存在、活用方法を考える必要がある。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ意識の提供、住民交流を図ることができたと考えられる。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	9,734			事業提案限度額 10,759千円	次年度繰越金額 1,025千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	349	機器借上料 336 電気使用料 13	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	防犯カメラの設置について、費用対効果等の疑問を呈する意見もあったが、人間関係の希薄化、スピード化、犯罪の抑止効果を期待して設置を始めた。	当地域は市内でもとりわけ犯罪の少ないところではあるが、交通事故の実証等に効果を発揮した。	住民の間にも、設置に対する認識が広がってきた、当初は犯罪、交通事故を想定していたが、失踪等についても用途が拡大してきた。	管理、運営の正確化、迅速化を図り、結果についてのフォローがあれば今後の地域防犯の一助になると思います。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	防犯カメラの新設、また防災倉庫の新設及びその備品整備や防災訓練の実施等。安全・安心なまちづくりに向けて積極的に取り組まれたものと評価。未執行に終わった補助金事業があり、各団体と連絡、調整を密に行ってもらいたい。	地域の危険箇所へ防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果も期待する。継続的経費について理解の上、設置箇所について議論した上で提案を期待する。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	236	電気使用料 36 設備保守点検委託料 200	防犯カメラの維持管理を行う。	平成29年度は平成30年2月に4台設置して、それまでは10台を設置、稼働していた。	設置台数も増えてきて地域として安心感が大きくなってきている。	車の運転者や小学校のPTAなどから防犯カメラを設置して安心できるという意見を聞く。	カメラの台数が増えて担当課も維持管理が大変だと思えますがよろしくお願ひいたします。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	小学校、中学校の主要な通学路で人の通りも少なく犯罪行為があっても分かり難かった。	設置場所付近における犯罪、事故等は無い。	設置効果はある。	いたずらによる警報音により、近隣への迷惑がたまに生じることがある。		緊急通報装置の運用が今後犯罪の抑止効果に繋がることを期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	970	器具費 381 補助金 589	万が一の事態に備え防災倉庫を新設し、防災備品を備蓄する。	地域コミュニティ推進協議会の既設の倉庫が満杯で新しい倉庫が必要であった。防災用ラック、ラック式トイレ、それらを運搬するリヤカーがなかった。防災用のチョッキ、防災用のキャップがなく自治会のものを用意していた。	災害時のトイレ、リヤカー、その他既設倉庫のものを一部移設することができた。女性用トイレ等の設備が壊れ、チョッキ、キャップも推進協議会独自のものが揃った。	仕分け、整理がつき、今後の防災備品の入庫予定が立った。防災訓練で各自治会と一緒に参加しても従来は私蔵が借り物で参加していたが推進協議会として参加できるので気持ちは高い。	整理整頓、清掃の徹底を図る必要がある。備品の管理、鍵の管理も徹底する。今後参加者が増える見込みなので、(自治会の無い所、自治会に入っていない人、マンションにお住まいの人等)増加分の手当てが必要。		災害時に適切に運用できるように、日頃からの維持管理を期待する。	危機管理課 災害対策費/自治振興費	
地域掲示板設置事業	999	修繕料 999	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板の設置及び既存の掲示板の修繕を行う。また当該掲示板を地域団体と共に使用出来るようにする。	見通し条件の良い地域福祉委員会の掲示板が倒壊寸前の状況になっていた。地域推進協議会に設置の依頼依頼があり協力することにした。既設の当該協議会の掲示板が満水で美観上も掲示板としての使用上も不都合になった。	新規設置分は地区福祉委員会と共同で使用でき、防水改良は磁石式で利用しやすくなった。	地区福祉委員会分と合わせて使用できるので掲示物の共通化が図れて地域住民の利便性が向上した。	掲示物の数が増えて掲示板が満杯の状況が続くことが多くなった。		地域の地区福祉委員会とも連携し、広報に寄与しているものと評価。地域内の災害基準を定めるなどの対応をお願いしたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
AED管理事業	297	器具費 297	使用期限が切れる本体1箇所(ビュウラン/池田五月丘)の更新を行う。	使用期限が切れる本体の更新を行う。	五月丘ビュウランに設置分の更新を行う。	設置場所の住人の年齢が比較的若いということもあり、使用実績は無い。	今後、地域での設置を考える時、台数の拡大は避けられる方がよい。		集合住宅等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ることを考える。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
道路安全対策事業	400	修繕料 400	やまざくら通りの歩道3箇所にソリッドシートを施工し、視覚的に自転車のスピードの出し過ぎを抑制する。	昨年度はやまざくら通りの東側歩道3箇所にソリッドシートを施工した。	29年度は昨年度の反対側に3箇所ソリッドシートを施工した。	ソリッドシートの存在に気が付いた人は注意、徐行して自転車運転している。	ソリッドシートの設置も大切ではあるが母と子の自転車運転の安全教育の実施もすることが必要。		交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路・河川課 道路維持費	
地域防災訓練強化事業	230	補助金 230	防災意識向上のため、ポスターの製作と隣接地域と合同で防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘1丁目、アルビス五月丘、五月丘5丁目の自治会が中心になって地域防災訓練を行っていた。	自治会の無い地域の住民、マンションの住民、自治会に加入していない住民を推進協議会が統一して他の自治会と共同で訓練を行った。	推進協議会として30名ほどが訓練に参加して、自動、共助の大切さを分かっていただいた。	五月丘地区においては自治会の無い住民、自治会に属さない住民、マンションの人間について、地域推進協議会が包括して支援する必要がある。		校区単位での防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域安全パトロール事業	172	補助金 172	地域内の犯罪、事故防止のためネックストラップをつけることで啓発を図る。	地域全体の安心・安全を明示するネックストラップが無かった。	推進協議会の会員を始め、犬の散歩をする人、早期体操会の人、ジョギングをする人等が付けてくれた。	声かけ運動の一環としても効果があり、つけている人同士のあいさつや、会釈をするようになった。	浜谷中学校、五月丘小学校で挨拶することが奨励されているので地域でもネックストラップを増やして、時間をかけて声かけを広めたい。		地域防犯の一助を担う存在としての効果を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	263	補助金 263	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の地域住民に対する認識や活動内容等の理解を促すため、継続事業として、全戸配布をしている。	年/2回、19回の発行に及び地域住民に活動報告、催物のPR、アンケート調査等を行う。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容の充実と長年の発行実績により、地域の皆様の認知度は確実に向上している。	活動内容が広く紹介されているか、紙面デザイン、レイアウト、内容が適切か、広く意見を聞くことも考える。		協議会の進んでいる活動について幅広く紹介されている。レイアウトや文量については適切に検討の余地あり。	政策広報課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	136	補助金 136	都市再生機構(U.R)の北集会所一部を借り上げ、協議会の拠点施設とする。	各種の用具を保管する場所がなく、分散して保管していたが効率が悪く、整理もつかなかった。	隣接する部屋をコミュニティ・カフェとして/2回URから借りて、カフェの備品等も収容でき、効率的に利用できるようになった。	隣接する部屋を利用できるという利便性はコミュニティ・カフェには高い。	コミュニティ・カフェの備品が多くなっており方については、引き続き地域内で議論を深めていただきたい。		備品管理、拠点のあり方については、引き続き地域内で議論を深めていただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
コミュニティサロン設置事業	113	補助金 113	地域の人人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	地域住民の交流を図る場所と地域推進協議会の認知度向上を企図して、カフェを2回/月開催し、地域の人たちが楽しめる場所がなかった。	回数を重ねるごとに内容の充実が図られて、高齢者、親子づれの参加者が増えてきている。	カフェを運営するボランティアの皆さんのご苦労もあり、イベントの出演者、地域の皆さんのご協力を得て、交流の場として定着した。	イベント等幅広く企画を行い、より多くの地域の皆さんに参加をいただけたこと事業構築を行う。ボランティアの増員をいかに図るかを検討していく。		地域の活性化に寄与しているものと認識。運営にあたり、透明性の確保をお願いしたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
盆踊り大会支援事業	229	補助金 229	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	継続して実施している、当地域では夏の定番となっている。	天候にも恵まれ、盛況であった。	協賛して交流し、地域推進協議会として地域の他の団体に対して、また他の地域の団体に対しても得るところがあったと思われる。	備品、用具等で老朽化したものがみうけられる、これらの更新を図る必要がある。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
五月丘フェスタ開催事業	500	補助金 500	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流、ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	盆踊り大会、市民運動会以外にも若者男女、子どもまで、ふれあえる場を必要としていた。	準備段階、当日のイベント、来賓の方々、出演者、支援者、運営に関わった会員の皆さん全員が一致協力してやり切った。	地域の人たちが一体となって、達成感を味わうことができたことは意義がある。	イベントの選定、管理、設備等ノウハウを積んだつもりでもまだ改善の余地がある、謙虚に反省して地域にとってどうあるべきかを考えていく必要がある。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

五月丘こども神輿支援事業	179	補助金	179	五月丘こども神輿のお祭り用品の支援を行う。	神輿を担ぐ時に着る法被や帯の数が足りず、他の地域から借りたり、着ずに参加していた。	大人用、子供用と何とか格好がつくようになり、参加希望者の期待も高まった。	我が国の伝統文化に子供の頃から、ふれることは情操教育の点からも良好と思われる。	衣裳や神輿については一通りの準備ができたのでこれからは協議会として見守っていきたい。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
カルチャースクール開催事業	30	補助金	30	文化的な住民のふれあい・交流の場としてカルチャースクールを開催する。	生活に直結した、子育てに役立つ、文化的な物がなかった。	3月に赤ちゃん教室の開催を予定していたがインフルエンザの流行で赤ちゃん、参加者それぞれの安全を優先して来年度に延期した。		インフルエンザ、はしか、など流行は予期し得ないが、開催の時期を考えて、安全第一で開催するように行きたい。	—	人権・文化国際課 自治振興費
花プロジェクト事業	100	補助金	100	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	大阪府の緑化事業で小学校3年生の授業の一環として、取り上げられていたものを当コミュニティ推進協議会が引き継いだ。	府池田土木事務所、池田市教育委員会、五月丘小学校教職員、PTA、児童、渋谷中学校教職員、生徒、地域の皆さん等により補込みして、育成、開花させる。	校長先生、教頭先生の熱心な水遣り等で夏休みの間も花の大部分は枯れずに開花する。その花を見て子どもたちはきれいと感じ、緑の大切さを知る。	6月と10月に補え込みを行うが小学校の授業の一環として、中学校のクラブ活動の一環としてだけでなく公共性のある場所にも広げて、地域全体の環境改善に役立てたい。	学校と地域住民が協働することで、地域コミュニティの輪が広がり、緑化への啓発活動になっている。	公園みどり課 自治振興費
高齢者の居場所づくり事業	82	補助金	82	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	高齢者特に男性の閉じこもり、認知症予防、安否確認が出来て、おしゃべりや気の向いたことが出来る場所がなかった。	男女が半々ぐらい出席をされて麻雀、トランプ、ぬり絵、囲碁やおしゃべりと思いの事をされている。	地区福祉委員会、民生児童委員の協賛を得て、協議会で不明な点があれば協賛の皆さんの応援を得ることができ、地域が一体となって開催できる。	地域の皆さんが気象に來てもらえるように、敷居が高いと思われないように、気軽に楽しんでいただける雰囲気づくりに努めていきたい。	高齢者の孤独死や孤立を防ぐために有効な事業である。高齢者のみでなく幅広い世代の交流の場や、居場所づくりに繋がることを期待する。	高齢・福祉総務課 自治振興費
キッズランド支援事業	50	補助金	50	五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	従来、工作遊びをする水槽が1つで、列をなして待ち時間が多く活動に不便をきたした。ゲーム遊びが限定していた。	待ち時間が少なくなり他の活動を行う事が可能になった。遊びに幅が広がった。	活動時間を有意義に使うことが出来るほか、小学校で行う他の行事（五月丘フェスタ、盆踊り等）にも利用できて、地域活動も活性化出来た。	キッズランドが使用しないときは地域の他の団体が使用出来るように有効活用を期待したい。	キッズランドにおける工作や行事において使用する水槽を購入したことにより、活動に幅ができて、行事も活性化して評価できる。	教育センター 自治振興費
イベント運営事業	95	補助金	95	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	五月山ハイキング、グランドゴルフ、里山教室は恒例行事化したが卓球教室を新しく支援事業に加えた。	グランドゴルフ大会を年2回開催した。回を重ねる毎に集まってくる人数が増えてきて、老若男女、子供たちも参加するようになった。	地域の隔々から参加者があり推進協議会のPRに役立っている。日頃、顔を合わさない人が自治会や管理組合を超えて飲談できている。	老若男女を問わず交流の場を増やして、他の地域団体と共同して開催を図ることも必要だと思う。	行事開催で住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	地域のスポーツ振興会等が独自で地域の秋の運動会を開催していた。	スポーツ振興会の倉庫設置やグランドゴルフ大会の協力など団体間の連携が緊密になった。	地域にとって協賛団体が増えて、事業に参加する人数も多くなり盛り上がった。推進協議会のPRにも一役買ってくれた。	もっと面白い企画と、もっと大勢の参加者にきてもらいその中で地域コミュニティ推進協議会の協賛のカラーを出すことができれればと思います。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	5,731			事業提案限度額 9,366千円	次年度繰越金額 3,635千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	172	電気使用料 22 設備保守点検委託料 150	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区内には現在8ヶ所設置している	カメラ設置に係る維持管理の為に定期検査等を実施、より正確な資料提供に努めた。	必要に応じ、市役所危機管理課（警察の要請による）の要請を受け、カメラ開示立会を行った。	継続	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	本年度も地域内の会館の改修等の整備に積極的に取り組んだものと評価。協議会内で広報担当者の不在が長引く結果、事業運営にも支障が出ており、協議会体制の強化が課題と認識。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費
地域内会館設備改修事業①(空港会館)	665	修繕料 665	空港会館の空調設備の整備を行い、利便性を向上させる。	空港会館内空調設備の不良の為に改修を行った。	空調設備の改修に伴い利用者の利便性快適性を確保した。	空調設備の改修に伴い利用者の利便性快適性を確保した。	適正な使用に努める			会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課共同利用施設管理費
地域内会館設備改修事業②(石橋会館)	3,215	修繕料 3,215	石橋会館の空調設備の整備を行い、また2階の女子トイレに洋式トイレを1箇所増設することで、利便性を向上させる。	会館内休養室・保育室の空調が老朽化し、使用者に不便を与えている	夏場に向けての早期の改修に伴い、利用者に快適・利便性を向上する事が出来た。	夏場に向けての早期の改修に伴い、利用者に快適・利便性を向上する事が出来た。	適正な使用に努める			開館が決定する中、最後まで安全な会館運営に寄与いただいたものと評価。	地域分権・協働課共同利用施設管理費
地域内会館備品整備事業①(空港会館)	94	庁用器具費 94	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地区内の卓球愛好家より地元卓球台の設置の要望あり。	空港会館会議室に卓球台1台を配置する	身近に卓球台が設置され有効に利用されている	大切に使用、管理をする。			会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課共同利用施設管理費
水路等美化事業	114	修繕料 114	地域の美化及び道路の安全確保のため、今井川排水の壁面及び道路の清掃を行う。	石橋1丁目版急電鉄高架下水路壁面がらく書等で汚れている。	今井川水路壁面の清掃と放置自転車の片付け。	作業の実施により地域住民（通行者を含む）の道路等美化意識の向上にも役立った。	道路等の美化意識の継続			清掃により、より良い景観の確保ができたと考えます。	道路・河川課利用排水対策費
街路灯強化事業	330	電気使用料 11 修繕料 319	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	老朽化に伴い撤去されたままになっていた版急西園街道路西側道路に街灯を設置する。	上記場所の電柱に街路灯を設置する。	街灯の設置により道路の明るさを確保し歩行者等の安全・安心に役立っている。	安心・安全の継続			街路灯の強化により、地域内の夜間道路の安全確保が図られている。	道路・河川課交通対策費
道路安全対策事業	234	修繕料 234	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	空港地区内の道路通行安全・安心確保の為カーブミラーを設置する	カーブミラー（2基）の設置。	カーブミラーの設置により、運転者、歩行者に安全意識も向上した。	地域住民が安全意識をもって生活する。			交通安全性の向上により一定の効果があったと考えられている。	道路・河川課交通対策費
地域防災体制強化等事業	353	補助金 353	自主防災組織への資機材整備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。	空港地区自主防災組織への用具補助	発電機1台、UV土のう袋を購入	用具等の補充により万への安心・安全を確保した。	適正な管理を継続する			地域内の防災備蓄品を適切に配備、管理でき、災害時の有効性を期待する。	危機管理課自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	309	補助金 309	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地区内の活動状況・事業実績を地域住民にPRする為発行。	本年度は2回の発行となったが、地域内全戸に配布した。又地区内掲示板にも貼付しPRすると共に活動への理解を求めた。	当地区の活動への理解を得る一助になったと思っている。	本年は2回の発行となったが平成30年度は3回発行に努める			シンプルでレイアウトで見やすい。低コストで効率よく作られている印象。発行回数が増えれば検討の余地あり。	政策広報課自治振興費
地域内会館備品整備事業②(石橋会館)	151	補助金 151	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	現在ある石橋会館内の携帯型拡声器の老朽化に伴い使用時に支障がある。	新規拡声器を購入する事により、利用者利便性と音声の正確性の確保に役立った。	新規拡声器を購入する事により、利用者利便性と音声の正確性の確保に役立った。	使用者に適正な使用を求める。			会館の利便性が向上したものと評価。整備した備品については、地域での管理の徹底が必要。	地域分権・協働課自治振興費
地域行事等活動推進事業	130	補助金 130	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	行事を主催する「石橋まつり実行委員会」の活動を支援する為補助する。	地域行事の円滑な推進の為に有効利用した。	池田市民は元より近隣の市・町の皆様も多く参加し楽しまれた。	整備体制の充実により事業の安心安全運営を計る。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
石橋太鼓支援事業	270	補助金 270	石橋まつり等で使用する太鼓の皮の張替えをし、子供太鼓活動を支援する。	石橋太鼓会（石橋まつり等地域行事に出演）が使用する太鼓皮の破損等により正確な演奏が困難である。	太鼓2基の皮の張り替えを実施した。	「石橋まつり」当日多くの小学生が参加し楽しく演奏する事が出来た。	今後共必要に応じ張り替えを実施したい。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
石橋南地域花いっぱい運動支援事業	73	補助金 73	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園等に植付ける。	地域の緑化（花いっぱい）を志すボランティアの育成や児童に命（花）の大切さを体感させる事が出来た。	地域の緑化（花いっぱい）を志すボランティアの育成や児童に命（花）の大切さを体感させる事が出来た。	今後も引き続き支援して行きたい。			今後も地域と学校が協働で自然とふれあいの場を広げていくことを期待する。	公園みどり課自治振興費
交通安全対策事業	67	補助金 67	地域内（石橋4丁目）を走行する自転車による事故撲滅のため、自転車走行注意の垂れ幕を設置する。	石橋4丁目前池公園北側道路に自転車の安全運転を促す垂れ幕を設置する。	「なかよしこども園」に子供を送迎する保護者等に効果をもたせたい。	「なかよしこども園」に子供を送迎する保護者等に効果をもたせたい。	引き続き安全運転の実施に努める。			自転車運転者に対する注意喚起となり、交通安全につながった。	まちづくり・交通課自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	石橋南校区主催の市民レクリエーション大会の円滑な運営の為補助する。	大会運営費の一部として有効に活用された。	多くの地域住民の参加があり、健康増進・交流の場として楽しく過ごせた。	継続（安全運営に努める）			事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考えます。	生涯学習推進課社会体育振興費
計	6,477		事業提案限度額 6,805千円	次年度繰越金額 328千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への普及及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
地域掲示板設置事業	200	修繕料 200	地域の情報を広く住民に広報するため、掲示板を設置する。	人の往来が活発な小学校の校門前に掲示板がなかった。	たくさん掲示物がある賑やかな掲示板となった。	住民への広報がより効率ようになった。	掲示物の定期的な更新。	各部会でまとめたものを役員会で決定する。	金管バンドやキッズランドへの支援を含め、子どもを中心とした事業を多く実施されたものと評価。支援の方法、補助金のあり方については、地域内でしっかりと精査、調整したくようお願いしたい。	地域の広報に寄与しているものと評価。地域内の掲示物等を定めるなどの対応をお願いしたい。	地域分権・協働課自治振興費
緑丘2丁目公園整備事業	330	修繕料 330	緑丘2丁目公園の植物への水やりを自動化するため、灌漑設備を設置する。	花がたくさん咲いてきれいな公園であるが、ボランティアによる管理には限界がある。	主に御高齢の住人になっていた管理が楽になった。	元気にボランティア活動を続けていただいている。	ボランティアスタッフを確保しなければならない。		散水設備を設置することにより、今後地域住民と協働して適度な公園管理に期待する。	公園みどり課公園費	
水月公園改修事業	85	修繕料 85	経年劣化している水月公園の木製スロープの補修を行う。	10年前に設置した木製スロープが劣化し子供が怪我をする。	きれいになり子供も安心して寝そべる事ができる。	子供の安全確保ができる。	木製なのでまた改修工が必要。		公園施設を地域住民と協働管理していくことにより、より良い公園づくりを進めていく。	公園みどり課公園費	
AED管理事業	316	消耗品費 19 器具費 297	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体1箇所（鉢塚会館）の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	鉢塚会館のAEDについて更新時期がきた。	正常に使用できる状態になった。	住民に安心していただける。	屋内にあると閉館時に使えない。		共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課保健衛生総務費	
街路灯強化事業	284	電気使用料 2 修繕料 282	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	空き家が増え家からの明かりが無くなり暗くなった。	家の電気に関係なく明るい道路になった。	夜道でも住民に安心していただける。	今後も住民の小さな意見を聞いていきたい。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課交通対策費	
緑丘小学校金管バンド支援事業	1,337	校用器具費 1,337	緑丘小学校の金管バンドの楽器更新を支援し、子どもたちの意欲向上を促し、地域と小学校の交流を促進する。	高額な楽器の更新ができず古い楽器を無理やり使っていた。	子供たちが生き生きと演奏をしている。	子供たちの努力、先生の努力の甲斐あって全国大会に出場し良い成績をおさめた。その後方支援ができた。住民の皆さんへのお礼にと「ありがとうコンサート」を開催して下さっている。	ひとまず楽器の支援は休止。		使用可能な楽器の一層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課学校管理費	
水月児童文化センター整備事業	120	器具費 120	水月公園の利用者向けの放送設備を水月児童文化センターに設置する。	毎日5時に児童文化センターの職員が帰宅を促す放送を入れて下さっていた。	5時になっても忘れることなく自動で放送できるようになった。	今まで放送設備がなかった水月公園に放送設備ができ、菖蒲祭りの際の迷子の放送など効果的に活用している。	下の広場への放送も考えたい。		今後も放送器具の活用に向けていただきたい。	生涯学習推進課社会教育管理費	
地域防災体制強化等事業	541	補助金 541	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を促す。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。また、防災博物館の見学を通して防災組織を高める。	毎年同じことをやっているとの批判があった。	今年は、はしご車や車椅子体験、非常食試食などいろいろメニューを追加し、賑やかな防災訓練となった。車椅子の購入によりお年寄りの多い地区に歓迎された。	車椅子体験は子供に大人気で行列ができていた。はしご車についても親子連れが写真撮ってたのしうだった。	比較的若い世代の多い地区だと思うので小さなお子さんのいるご家庭が参加しやすくなるようにしていきたい。		校区単位での防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	まだまだコミュニティー紙を認知していただけない。	会員自ら配布し顔を合わせた住民の人には「読んでください」と声かけをしている。	それなりに効果はあるものと見え問い合わせの電話などがやってくる。	タイムリーな発行		文字デザインなどが目を引く。遊びやコラムなど、パワースよく情報が取り入れられており、引き続き安定した情報発信を期待。	政策広報課自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会啓発事業	150	補助金 150	鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会の活動について知ってもらうため、また活動を行う際の安全確保のためのスタッフジャンパーを購入する。	会員が行事を運営していても、コミュニティーがやっていると認識してもらえない。	反応は確認していないが、とつても目立って良い。	行事ごとに着用し、コミュニティーの存在をアピールする。	足りなくなるくらいメンバーを増やしたい。		協議会の認知に役かっているものと評価。引き続きPRに努めていただきたい。	地域分権・協働課自治振興費	
地域イベント開催事業	520	補助金 520	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者に楽しんでいただく。	例年と同じである。	今年はいい天気であったため来場者が多く、過去最高の来客数であった。運営を実際にお茶の練習に来ている人たちにも担ってもらった。	お茶の練習に来ている人達がお客様ではなく自分たちがやっている行事なのだという意識を持ってもらえて大変良かった。	まだまだお客様然とした参加者がいるので自分たちがやっていくのだという意識を徹底したい。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
子どもの居場所づくり事業	50	補助金 50	子どもたちが地域の大人や友達と、一緒に遊びや勉強等をする場を提供することで、子どもたちの居場所をつくる。	日曜日に両親が不在、もしくはたまの日曜日に子供を預けてゆっくりにしたいと思うご家庭の子供を対象とした。	最初は子供が集まるかどうか心配であった。1回目は5、6人であったが、12月には40名弱の子供が集まった。	こちらから遊びを与えるのではなく、その場で何をしたいか自分で考え遊んでくれるようになった。	今年度は室内でずっと遊んで「外に行きたい」との子供の声にもっともであると思った。		休日に子どもの居場所をつくることで地域住民と子どもが交流し学び・遊ぶ場を提供するほか、保護者への子育て支援にもつながっている。地域住民と子どもが一緒にイベントを企画しながら、居場所づくりの充実を図っていくことを期待する。	子育て支援課自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

健康啓発講座開催事業	100	補助金	100	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	例年好評の事業	少しずつではあるがこの事業についての評価は上がっている。	地域のお年寄りを抱える世帯に情報を提供し安心して生活いただけるようになれば良い。	参加できる人数に限られる。	参加者が限られる課題はあるが、認知症に関する知識や予防法などの普及、啓発を通じて、地域において実践できる取り組みについて考える機会としていただきたい。	地域支援課 自治振興費
緑丘小学校イルミネーション支援事業	60	補助金	60	イルミネーションコンサート時に使用するツリーライトのLED化を支援する。	小学校が毎年開催しているイルミネーションコンサートに合わせ実施しているイルミネーションは学校の好意によりお正月明けまで点灯し好評を得ている。	よく切れる電球を耐久性のあるLEDに置き換え更新する間隔のびると共に電気代が減少した。	きれいに輝いている。	いい加減に更新をやめてどうかという意見があり話し合いが必要である。	しふたに学園の教育コミュニティづくりの取組であるイルミネーションコンサートは19回目の実施。美しいイルミネーションは多くの人々を魅了するとともに、地域のコミュニティを深める一助となっている。イルミネーションで使用するLED電球をはじめとした整備状況を確認した上で事業の継続をするか検討する必要がある。	教育政策課 自治振興費
キッズランド支援事業	50	補助金	50	緑丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	遊び道具の不足があった。	子供たちがきれいな遊び道具で遊べるようになった。	子供たちがたのしそうである。	定期的に更新する必要がある。	キッズランドで使用する道具等を購入したことにより、子どもたちが道具を取り合うことなく安全な環境の中、活動を展開することができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
オペラ鑑賞会開催事業	600	補助金	600	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、観と子、地域住民との交流を図る。	例年好評の事業	今年度は少しむつかしい内容であったが、しっかりと鑑賞していた。	役者さんたちに子供と一緒に給食を食べていただく事ができ、3年生は大変盛り上がったようだ。	地域に根付かせるために、大人の来場者を増やさなければならない。	せつかくの機会なので、より多くの人が参加できるようにしていただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
ふれあい講習会開催事業	930	補助金	930	星産観察会を通じて親と子のふれあいの場を提供する。子どもたちに、本格的な音楽に接する機会をつくるためのイベント「音楽の宝宝箱」を開催する。	例年好評の事業	地域の大人も子供も目を輝かせて参加いただいている。	子供たちがたのしそうである。また来年も来たいとの声が多数あった。ボランティアの学生たちと子供が本当に仲良さそうにしていた。	落語会での松喬さんへの対応が難しく、落語会の運営についての勉強が必要だと思った。	せつかくの機会なので、より多くの人が参加できるようにしていただきたい。	生涯学習推進課 自治振興費
ふるさと再発見講座開催事業	220	補助金	220	わが町に愛着、誇りが持てるように池田の歴史や自然を再発見する講座を開催し、同時に親子ふれあいと地域住民のコミュニケーションを図る。	例年好評の事業	子供たちが飛行機の整備工場や一庫ダムなどの施設見学に興味深々であった。	子供たちがたのしそうである。	整備工場が沖繩に移転するため次年度からの開催は見送る。	こどもの興味のある事業ができたことは有意義と考える。	生涯学習推進課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	230	行事報償金	230	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	地元の人達の熱意により毎年大いに盛況である。しかし、子供会に入っていない子供たちへの浸透が今ひとつである。	例年同様の大会であった。	効率的な運営がなされている。	ボランティアスタッフを確保しなければならない。特に豊福さんの負担軽減が最大の課題。子供たちへの参加の呼びかけを徹底したい。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと思う。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	6,423			事業提案限度額 6,931千円 次年度繰越金額 508千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	1,210	修繕料 1,200 電気使用料 10	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	神田消防分団近辺・脇塚の中国道下の地下道に防犯カメラがなく地元からの要請があった。	防犯カメラを2カ所設置した。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。事故抑止効果が期待できる。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。（ドライバーからもよく見えるように）	各部会からの報告を同時に防災体制強化に組み込み、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心の向上に寄与したものと評価。継続的経費について理解の上、設置箇所について協議した上で提案を期待する。	防犯カメラの新設と同時に防災体制強化に取り組み、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心の向上に寄与したものと評価。継続的経費について理解の上、設置箇所について協議した上で提案を期待する。	地域分権・協働課 自治振興費	
防犯カメラ維持管理事業	30	電気使用料 5 設備保守点検委託料 25	事故や犯罪を未然に防ぐための防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	神田消防分団近辺・脇塚の中国道下の地下道に防犯カメラがなく地元からの要請があった。	既設のカメラについては、28年度に続き29年度も保守点検等の維持管理（電気料含む）費用が発生。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。事故抑止効果が期待できる。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。（ドライバーからもよく見えるように）	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	地域分権・協働課 自治振興費	
地域内会館備品整備事業	2,286	庁用器具費 2,286	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	大会議室の机・椅子が重く、設置・撤去が大変であった。	軽量のテーブル、椅子に切り替えた。（神田北会館） 台車を増設した。（早苗の森会館）	利用者からは利用しやすくなったとの声大きい。			会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費	
地域掲示板設置事業	1,000	修繕料 1,000	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	過去に民間事業者が設置した掲示板を使用していたが、老朽化等もあり使えない状態が続いていた。	ガラス扉付の掲示板を設置した。 29年度に4カ所追加設置した。	雨水にも濡れなくなり、校区内各種団体にも活用されている。	未設置箇所を調査し設置することが必要。		地域の広報に寄与しているものと評価。設置場所については、地域内で十分協議いただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
AED管理事業	28	消耗品費 28	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	小学校等には市の事業としてAEDが設置されていたが、24時間対応が無理であった。	コンビニ2カ所・早苗の森会館の3カ所に24時間対応可能なAEDが設置できた。 29年度から保守点検費用を負担するようになった。	コミュニティ広報誌にも設置のPRをし、住民に24時間対応可能ということを周知できた。			コンビニ等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来るようになったと評価。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
街路灯強化事業	49	電気使用料 49	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。 （放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘）	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施。校区内の夜間が明るくなった。 維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置を要望を受け付けるようPRも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。 私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主とどのように調査するか検討が必要。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課 交通対策費	
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、見守り活動を支援するとして、パトロール隊が電動自転車で行う。	PTAによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含めた校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。（平成21年1月以降）平成28年度につき、継続実施できた。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。また、PRのためパトロール中の肩掛けも効果をおげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。 電動用バッテリーの交換のタイミングにきているものから順次交換する必要あり。		今後もパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	625	補助金 625	地域の安全・安心の向上のため、見守り活動を支援するとして、犯罪抑止を図る。	夜警等の際に防寒機能の低いジャンパー着用、また夏場は黄色したTシャツで実施していた。	防寒コート・半袖Tシャツを製作配布した。	自主防災会の夜警が気持ちよく実施できるようになった。	犯罪抑止のための各種方策の検討が必要。		地域防犯の一助を担う存在としての効果を期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	521	補助金 521	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。（白黒印刷）	カラー刷りの広報紙を、年3回地域内全戸配布できた。（22年度以降継続）	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー、安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集し続けることが必要。 ワンルームマンション増加への対応が必要。 世帯数増加への対応は常時検討必要。		情報量が多く、独自性の高い記事もある。今後もスペースや掲載を考えた、読者も読みやすいレイアウトになることを期待。	政策広報課 自治振興費	
神田地域コミュニティ広報事業	867	補助金 867	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。 29年度も継続実施した。 広告掲載も昨年より増加し3件となった。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の高揚を図ることの検討が必要。		カレンダーも3年目となり、地域で定着するとともに、コミュニティ意識の醸成及び協議会のPRに寄与しているものと評価。	地域分権・協働課 自治振興費	
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場として、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	27・28年度につき、29年度も3回の神田フェスタを開催した。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむづかしくなってきた。（神田地区中心部にある民間設備の利用も検討）		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
地域行事等活動促進事業	200	補助金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。 29年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
神田地域花いっぱい運動支援事業	60	補助金 60	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3カ所に花壇を設置、定期的な花の入れ替え・水やり等ができるようになった。（神田の花会メンバーが対応）	常にかきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。		地域が協働して進めていることで、憩いの場としての公園の魅力が向上していくことに期待する。	公園みどり課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

キッズランド支援事業	150	補助金 150	キッズランド用品を充実させる。事業内容の拡充と参加者の増加を図る。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。	キッズランドのパソコン教室に必要な備品や消耗品を整備することで、活動の充実や参加者の増加につながっている。有粉事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を益譲り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	7,546		事業提案限度額 11,376千円	次年度繰越金額 3,830千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）	
事業名	予算額（千円）										説明
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							地域分権・協働課自治振興費	
街路灯強化事業	35	電気使用料 35	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	地域の特性を十分に生かし、各種の独自事業をNPOと協働で実施しているものと評価。補助金の執行にかかる内容・内訳等については、協議会としてしっかりと把握し、精査したところをお願いするとこ	街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	369	補助金 369	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかわからないため、活動を知っていたき、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会毎の事業報告や親水公園、グランドゴルフ場、イベント案内、防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。		文字は小さいが、内容が充実しており、写真や地域性の高い記事など、読み応えがあると評価。	政策広報課自治振興費	
細河ホームページ管理事業	191	補助金 191	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月1回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。		行事一覧など、紙媒体では紹介しきれない情報が地域の情報提供に寄与。今後もホームページのさらなるリアルタイムな情報を発信を期待。	政策広報課自治振興費	
細河ふれあい観光推進事業	200	補助金 200	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、細河PRイベントを行う。	ほそかわフェアというイベントを平成23年度より継続して開催している。細河の魅力や再発見し地域の活性化を促すとともに、地元特産物をつくり、細河をPRするように計画した。	しいたけ菌入れや野菜収穫体験を通して細河の魅力を伝えることができた。学校給食に大根、人参を出荷し細河野菜のPR、ブランド化に努めた。給食では、子どもたちに好評であった。又今年度は3年生に大根を1本づつ持って帰ってもらった。	関西大学の学生の企画で推進する。細河の魅力再発見、地域の活性化につながる行事である。	いろいろな角度から細河の活性化につながる企画を考え、実施できる若者や地域との協力関係の充実。学校給食に出荷にあたり、安定した供給体制の整備。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
細河祭り運営事業	150	補助金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行っている。模擬店を出店し、コミュニケーションを充実させることができた。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	小学校の廃校に伴い地域での行事継続の取り組み方。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
細河地域活性推進事業	2,179	補助金 2,179	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路管理等一連の事業を総合的に行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営、五月山ハイキングコースの維持管理、古くなった事務所の看板を更新する必要がある。	みどりの郷（火曜日休館）は朝8時から午後4時30分まで開けております。五月山ハイキングコースの草刈り、危険木の撤去を実施し、ハイキングしやすい環境になった。また、事務所の看板を更新した。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。ハイキングコース利用者が多く細河の自然を市民に提供し、地域活性化に寄与。	事務所詰め等のボランティア及び出展して頂ける人の募集。		来訪者に対し、細河の自然環境を活かした魅力を伝えることができた。	農政課自治振興費	
細河ふれあい農園事業	150	補助金 150	細河の遊休地を活用し市民に開放することにより、細河地域の活性化を図るとともに、農作物を通じて世代間の交流を促進し、また、市民が士に触れる喜びや癒しの場を提供する。	農園の草刈などの維持管理が必要である。また、新規農園の拡大を検討している。	畑に植えである植木を活用し自然の中でオーナーによる果樹の摘み取りをする。また、新規農園を整備し、拡大できた。	遊休農地の活用により地域の活性化を図れる。自然の中で植木や果樹との触れあう機会や地域外の人との交流が図れる。	トイレ、駐車場等利用者のマナーの向上。植木や果樹の剪定講座等勉強会の充実。		実際に農作業を体験することで、農業の興味関心を誘発した。	農政課自治振興費	
植木並設備補助事業	100	補助金 100	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、植木の魅力を新たにPRする庭園を通る。	見本園設備の不足があった。	設備の拡充することにより充実した見本園となる	多くの人に感動を与える	管理費がかさんでくる		主要な農作物である植木のPRを行い、地域産業の活性化を促進した。	農政課自治振興費	
細河の自然を守る事業	950	補助金 950	ホテルの育成事業の実施、里山での竹や野庭の炭焼き活動及び竹炭リサイクルの調査研究を行う。	蜜の飛ぶ環境が出来上がっているが、維持管理が必要。	蜜が飛ぶ姿を確認できた。地元市民に好評であった。里山保全活動では軽トラをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	蜜の飛ぶ豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。		ホテルの育成を始めとした細河の自然を生かした事業活動に取り組んでおり、今後も期待する。	公園みどり課自治振興費	
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金 25	地域と学校が一緒に実施する「みんなが育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	こった花の管理方法の確立。		学校と地域が協力して花を地域の老人ホーム等に配布することにより、地域のつながりにも期待できる。	公園みどり課自治振興費	
細河高齢者等配食サービス事業	2,500	補助金 2,500	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評のため、計画より1300食多くなった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な主婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める事が増え、他の事業に支障をきたす。		平成29年度は7,728食を配食。配食への希望者が年々増加しており、今後も継続が必要で事業だと認識している。	高齢・福祉総務課自治振興費	
細河コミュニティ道路整備事業	500	補助金 500	伏尾台地区と協働して地域間を結ぶ散策道の整備を行い、市民の健康増進を図るとともに隣接する地域間の交流を図る。	継続している事業で舗装工事が完了したが、秋ごろから夕刻の時間帯通行するのが暗く危険が伴う。	散策する人により伏尾台と細河の交流が進む。今回半分に照明が設置され、夜間も安全に通行出来る様になった。	細河・伏尾町と伏尾台をつなぐ貴重な通路である。交通事故による公道通行止めとき、路として利用できる。	利用者が幅広い年齢層になり、夜間照明、転落防止柵の設置出入り口への警備員の配置等も必要となる。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課自治振興費	
細河コミュニティ道路維持管理事業	50	補助金 50	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	雑草や枯葉等で滑りたりして危険である	急な箇所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要		道路整備により、より安全で安心な散策道が確保されたと考ええる。	道路・河川課自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

細河地域子ども会育成事業	250	補助金	250	校区全体で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども会活動の支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	7月にプール場、2月には大阪イングリッシュビレッジで研修し、子どもの育成に寄与することができた。	子ども会活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子ども会とのかわり。	プールや語学学習といった、普段経験できない活動の場を提供することで、子ども会活動の充実が図られ、子ども同士や親同士の触れ合いを深めることができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
グラウンドゴルフ場維持管理事業	50	補助金	50	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るために設置したグラウンドゴルフ場の維持管理を行う。	敬老会に運営整備を委託していたが規模が大きく高齢者には十分な整備が出来ていなかった。	業者委託する事でとても綺麗な状態を維持できるようになった。	利用者からも好評である。	利用者の増加の為今後は学校や地域の方々への募集を図りたい。	事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考える。	生涯学習推進課 自治振興費
計	7,799			事業提案限度額 7,799千円	次年度繰越金額 0千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								
防犯カメラ維持管理事業	286	電気使用料 36 設備保守点検委託料 250	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	H22年度に伏尾台への出入口道路である園道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。 H24年度に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。 H25年度、北高校の周囲道路側の中央付近から西方向に向けて1台、周囲道路の南東のT字交差点に東西方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。 H26年度、北高校の周囲道路側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏尾台への出入口道路である園道側と川西側の2か所に設けたカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。 14台の防犯カメラの設置によって、地域に入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。 H28年度、H22年度に設置した4台が市の維持管理下に置かれることになった。	H29年度は、協議会の維持管理下にある防犯カメラは10台となった。しかし、依然として地域には14台の防犯カメラが設置されており、地域に入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となり、緊急時の記録の開示要求に応じられる体制となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。	警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防犯防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件0を更新していたが、H27、28年に侵入盗が各1件発生した。 H26、27年、認知症の方が行方不明になったが、伏尾台から出ていない記録が確認でき、住民で捜索して無事発見できた。 H29年度は、例年通りの数回の池田番からの開示要求があり、立会い対応を行なった。	関係者の意見を参考にし、役員会でまとめる。 必要箇所に14台設置したので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなくなり、今後は維持管理が主になるが、捜査の記録開示の要請に備える体制の維持と、経年変化により故障するカメラが今後増えることへの対応など管理業務を強化する必要がある。 特に寒害によるサージ電流により作動が停止することがあるが、目視等で確認することができず、年1回のメンテナンスではその後の落雷の影響を確認することができない。 H30年度に、伏尾台への出入口道路である園道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラが、市で維持管理困難となるため、撤去が予定されている。危機管理課で園道交差点に設置予定の防犯カメラが、伏尾台への出入りを行う車両確認ができるように要請した。 さらに、声かけやけいずら事案が報告されているため、中央公園のトイレ付近に防犯カメラを置くことが要望されている。危機管理課へ設置の要望を行なった。	伏尾台コミュニティプラザの存在が、地域の方々に認識されてきており、地域の活性化に寄与しているものと評価。 一方で、その運営が大きな負担にもなっており、協議会として今後の拠点運営をどう考えていくか、まっちり議論いただきたい。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興課	
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	1,792	建物借上料 500 補助金 1,292	地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。	コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周囲道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防火・防犯巡回風として行われている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行った。このプラザ事務所には光ケーブルを引きこび、ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。 月曜日から金曜日のコミプラの開設日に、3交代でスタッフが留守番を行い、開館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、H28年4月1日からH29年3月31日までの実績で7,033名の利用を頂いた。子育て支援ルームのみの利用者は、約2669名であり、フリーサロンなどは約5,234名が来訪された。	西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、開館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 地域活性化事業のコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。 H29年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。また、夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。	伏尾台地域に入ってくるの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っている。コミュニティ推進協議会もより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,870名であり、フリーサロンなどは約5,493名が来訪された。	コミプラのフリーサロンの利用者数は増加傾向にあるが、微増であることから積極的な利用を図りたい。高齢者の居場所づくりを充実させたい。また、子育て支援ルームの利用は年々減少している。人口減少もあるが、他の利用者を対象にするなどの問題解決が必要である。社協のファミリーサポート事業の会場として機能できないか検討したい。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボネディア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、まちの不動産情報、特に空き家対策事業などとさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、掃除スタッフを現在10名のボランティアでボランティアを組んでいるが、依然として、絶対数が幅に不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。 平成29～30年度事業検討として、特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえるようにしたい。			2箇所の拠点を運営されており、それぞれ役割を担っているが、今後の拠点のあり方、事務局等のあり方については、協議会としての方向性をきっちりと決めていきたい。	地域分権・協議課 自治振興課
コミュニティサロン設置事業	625	建物借上料 500 補助金 125	地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。	利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の載練などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、歴史をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物師に商品を仕分けする方、食事をする高校生などをまさにフリーサロンとして利用されている。 福随カフェ会場として利用されている。 伏尾台で行う生徒、談笑するグループ、読書、歴史をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物師に商品を仕分けする方、食事をする高校生などをまさにフリーサロンとして利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。	利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の載練などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、歴史をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物師に商品を仕分けする方、食事をする高校生などをまさにフリーサロンとして利用されている。 福随カフェ会場として利用されている。 伏尾台で行う生徒、談笑するグループ、読書、歴史をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物師に商品を仕分けする方、食事をする高校生などをまさにフリーサロンとして利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。	伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,870名であり、フリーサロンなどは約5,493名が来訪された。	さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミフラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考え、平成30年実施を予定している。 また、コミプラ自身が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報、特に空き家対策事業などとさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。			地域の人たちが気軽に立ち寄れるフリーサロンとして、年々認知されてきており、地域の活性化に寄与しているものと評価。今後は安定した運営に期待するところ。	地域分権・協議課 自治振興課

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>625</p>	<p>建物増上料 補助金</p> <p>500 125</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供し、ボランティア活動者に対して情報発信や斡旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置した。まちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 H27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日よりH28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 H28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7900名を超えた。子育て支援ルームのみの利用者は、約2669名であり、フリーサロンなどとは、約5,204名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンの壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミュニティ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ボスターの掲示を頼み出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公民活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続きに住民が利用している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,870名である。 子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどでは5,493名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台副生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく広範囲の情報センターとして機能させたい。 キオスク端末の利用者数が、マイナンバーカードの普及率がまだ低いことから低迷している。</p>	<p>前年度までのボランティアセンターとしてだけでなく、さらに発展したまちの情報センターとして機能しているものと評価。さらなる情報の充実による地域の活性化に期待するところ。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>725</p>	<p>建物増上料 補助金</p> <p>500 225</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員は67組（134人）、ボランティア会員（12名）で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、12組（延べ242人）の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回（延べ246名）行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組（延べ4人）の参加があった。 平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ12名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。 平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。</p>	<p>コンプラ内子育て支援ルーム登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名となり、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守ると言う目的を達成することができている。</p>	<p>フレンズを中心に、社協子育てサロン、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。 ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回・キッズコンサート・小児科医座談会を開催しどれも好評を得た。月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となり、七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>利用者は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携を考えていきたい。幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が多いので、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動、遊具玩具が異なり、乳幼児向け支援での受け入れは課題が多い。新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子との交流、相談で訪れる母親への支援者が足りない。</p>	<p>子育て世帯のコミュニケーションの場として備品等の環境整備等を実施。親子の交流や育児の講習会、季節ごとの行事を実施し、親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着している。地域の現状と保護者のニーズを踏まえながら、支援体制の構築と活動の充実を期待している。</p>	<p>地域分権・協働課 子育て支援課 自治振興費</p>
<p>AED管理事業</p>	<p>297</p>	<p>器具費</p> <p>297</p>	<p>地域内の各所に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体1箇所（伏尾台センター）の更新を行う。</p>	<p>阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。</p>	<p>伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。</p>	<p>毎日、午前9時から午後9時まで開店しているコープ店舗内と、24時間常駐されている阪急バス車庫の事務所内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p>	<p>11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施し、防災防犯委員会の委員で使用訓練を実施しているが、さらに住民向けの使用訓練の機会を設けることが必要である。定期的に設置状態の確認を行うこと。コープ店舗には住民の多くが訪れるが、阪急バス事務所のAED本体の交換時期が到来した場合、設置を継続するか、再設置をしないか検討する必要がある。</p>	<p>コンビニ等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

<p>安全パトロール実施事業</p>	<p>400 補助金 400</p>	<p>地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。</p>	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違이에応じて、より細かいパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度は、小中一貫校のほごう学園に統合されたことにより、細川地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定立立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほごう学園の閉校日並びに登校・下校時間に合わせで行い、巡回のみならず定点パトロールを実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。 安全パトロールは、通年、一回当たり1時間を実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりを、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。 また、29年度は不審者情報が複数回答せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。 朝のパトロールは走行よりも主に定立立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者にあいさつを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>	<p>隊員の減少と隊員からの出勤時間帯の変更の申し出、さらに刻以降の乗務希望者が減少することから、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給等などの事務方の処理量が増大している。</p>	<p>日々の地道な活動な活動の成果により、小学校区でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっていると評価する。今後も引き続きの活動を期待する。</p>	<p>危機管理課 自治振興課</p>
<p>防犯防災啓発事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。</p>	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。平成27年度は、ほごうセンターの運用に際しては、防災備蓄倉庫を敷地内に移設しアクセスし易くした。 平成28年度は、8月6日、10月1日に避難所開設運営実習訓練を行い延20名が参加した。8月27日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場にて、延47名にて無縁機を使用した交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。9月23日は、津波・高潮ステーションと大阪市水上消防署の見学に14名が参加した。11月8日は、ほごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は300名に達した。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ95名が参加した。</p>	<p>4月22日防犯教室を開催し30名の参加を得た。6月3日住宅耐震対策研修会を開催し48名の参加があった。 7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。 9月5日と6日に旧伏小にて防災キャンプを実施し、45名の参加を得た。星空観察会の60名とともに避難所設置を見学した。 8月26日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ42名にて無縁機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。 10月7日防災訓練役割分担訓練を行い58名の参加を得た。11月5日はほごう学園にて防災総合訓練が行われ300名の参加を得た。11月25日、高槻市大震災観測所見学会を開催し、16名の参加を得た。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ105名が参加した。2月3日、災害時に役立つ防災グッズづくり実習会を開催し、39名の参加を得た。</p>	<p>特殊詐欺被害が増大しているが、伏尾台でも電話を受けた人の体験談を多く聞くことができ、被害防止の意識が高まった。 防災キャンプでの避難所開設訓練は、非常時の想定を実体験でき意識高揚に極めて有効であった。 夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。 総合防災訓練での必要経費を補助金で賄うことができ、300名の住民に7項目の訓練を受けて頂いた。 地震観測所見学会での知見について参加者全員に感想文を書いてもらい防災意識が高まった。 新聞紙等に災害時に役立つグッズに変わることを知ることができた。</p>	<p>総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練を行うこと、見聞を深め、意識を高める見学会などの要望があった。 防犯、防災委員のみならず、災害時の安否声かけができる体制、近所づきあいを深める活動が必要であるとの意見が多い。</p>	<p>防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。</p>	<p>危機管理課 自治振興課</p>
<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>300 補助金 300</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布作業の全てを、協議会メンバーのボランティアで実施してきた。費用は紙代等の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。 平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発行した経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。 さらに伏尾台地域活性化事業で行う3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会の手配りで実施した。 平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にし、平成27年度の実施事業を紹介した広報を全戸配布した。 平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙に、平成28年度で実施予定の事業を紹介した広報を全戸配布した。 平成29年3月に、伏尾台創生会議2020が行われた「伏尾台子育てにやさしいまち宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にし、平成28年度の本協議会が行った実施事業をカラー写真で紹介し、次年度の活動、事業を記載した広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p>	<p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本会議が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月を以て伏尾台地区の全戸に配布した。 平成30年3月末、平成19年に発行した10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青バトが定める年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p>	<p>平成29年度は、前年度の反省を踏まえ、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、活動の紹介、協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などを広報できた。 特に、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した広報紙第18号は特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p>	<p>「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが盛んに催されたが、会員の負担を減らすため「山びこフェスタ開催案内」をe-mail、ホームページなどで広報できるように考えていきたい。</p>	<p>レイアウトや記事の配置など、見ている人を意識したものになっており、「読みもの」としてのウオリチの高さを感じる。今後も読み手を意識した誌面作りを期待。</p>	<p>政策広報課 自治振興課</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

地域行事等活動促進事業	300	補助金	300	地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。また行事を通して、住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。	<p>子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御興の巡行が2丁目だけでなくなった。平成25年度に軽重であるが、本御興と同様の外観を有する子供御興を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方針が種々取られた。</p> <p>そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御興が活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取れることになった。</p> <p>第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。</p> <p>しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成27年8月22日に開催された。さらに、第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催した。</p>	<p>本年度も、住民有志による第43回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成29年8月26日に開催された。</p> <p>当日午前8時より12時30分まで、1丁目三角公園より子供御興が本御興とともに巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御興が4,5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。</p> <p>午後からの夏まつり第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会と、元プロバスケ選手とのゲーム大会を開催した。</p> <p>会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。</p> <p>伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多く参加し、この数年で一番の参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。</p>	<p>育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員として子供会の新旧の校区長が毎年加入している。さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。</p> <p>夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りに貢献している。</p>	<p>活動が活性化した子供会では、新調の子供御興の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。</p> <p>住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しいフェスティバル形態の夏祭りを企画して成功を収めることができたので、さらにステージを活用した企画をお願いしたい。</p> <p>また、伏小南校舎の跡地活用に関連し、校舎周辺の整備の計画があるので、これと連携して、恒久的なステージを整備できると良い。</p>
伏尾台地区活性化事業	350	補助金	350	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	<p>平成29年5月13日、コミュニティプラザ内で、音楽ライブ ジブシー音楽会を、伏尾台センター夢の広場公園での地区福祉委員会のフリーマーケットと共催の形で行った。</p> <p>7月22日、コミュニティプラザ内で、初来日の台湾の弦楽四重奏のコンサートを開いた。</p> <p>9月16日、コミュニティプラザ内で、リビート山中の歌とトークのコンサートを開いた。</p> <p>11月18日、コミプラにて、3名の若手落語を招いた落語の会を開いた。</p> <p>12月9日、コミプラにて、小児科専門医との座談会を開催した。</p> <p>平成29年2月10日、午後1時30分より落語の会をコミプラにて開催した。</p>	<p>開催結果を夢の広場は参加人数(0.5時間毎の最大ピーク人数、述べ人数でない)で評価する。夢の広場に立ち寄り20〜30分間いている方、演奏者の休憩時に帰られる方、最初から最後まで聞いている方等多くの人に楽しませている。</p> <p>コミプラでの開催時は定員が90名である。</p> <p>5月13日「ジブシー音楽会」1.5時間 90人</p> <p>7月22日「弦楽四重奏」1.5時間 90人</p> <p>9月16日「歌とトーク」1.5時間 90人</p> <p>11月18日「若手3人落語会」1.5時間 90人</p> <p>12月9日「小児科専門医座談会」50人</p> <p>2月10日「落語の会」1時間 90人</p>	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言いつつ、継続要望が多かったが、参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが応募が全くない。</p> <p>地域住民の顔い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加していること、音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わることが確認できた。</p> <p>コミプラには寄付でいただいたアップライトピアノがあるが、調律などが行われておらず、寄付のお披露目も行っていないので、ピアノをメインにした音楽会を開催したい。</p>	<p>事業提案に基づき、適正に予算執行されている。</p> <p>空港・観光課 自治振興費</p>
伏尾台地区住民清掃事業	50	補助金	50	住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、地域の団体、学校、各種グループとともに伏尾台地区の清掃とワークショップを行い、地域コミュニティの推進を図る。	<p>伏尾台地区の各丁目ごと5つの自治会は、それぞれ各自単位の住民清掃が定期的に行われていた。伏尾台の住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、1つのテーマで住民が清掃に取り組むことがなかった。</p>	<p>ほそごう学園より、1、2年生の地域学習の一環として、住民と一緒に清掃を行いたいとのコミ協への申し入れを受けて、伏尾台の住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、伏尾台1丁目の銀杏並木の管理をテーマにし、伏尾台住民とほそごう学園の1、2年生の生徒とともに清掃を行いました。</p>	<p>集めた落ち葉を府立池田北高校の校庭に運び入れ、池北の生徒、教職員と共に焼き草を作り、全員で焼き草を頂きながら、伏尾台在住の大阪大学名誉教授、木下修一氏の「芋とイチゴ」話を聞きました。この日の住民、学校の共同事業を記念して、その場の全員で、掃除を行なった銀杏並木に「春夏秋冬の道」と命名し、当該並木通りに、命名版を設置した。</p> <p>平成30年3月に閉校が予定されていた北高生とともに、ほそごう学園の1、2年生、地域住民と一緒に環境について考える機会となり、まさに地域コミュニティの推進を図ることができた。</p>	<p>それぞれで行っていた清掃活動を、伏尾台地域で連携して取り組めたことは意義深いことと認識。心合わせをすることで大きな変化に繋がるのが期待できる。</p> <p>環境政策課 自治振興費</p>
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金	25	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	<p>地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区)と共同して、細河中学校が行う地域花いっぱい運動中学生がバランジャーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う)を支援していた。</p>	<p>本年度もバランジャー、ビオラのプラグ苗を約1000株を育成用土、肥料等を用いて、大阪府の補助を受けた細河小学校3年生と本事業の小学校1年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成したバランジャー、ビオラは、平成29年12月11日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、やさしい環境作りを行うことができた。</p>	<p>ほそごう学園地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、小学生、中学生が行う学校、保育所、老人ホームなどへの花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。</p>	<p>学生が育てた花を地域に配布することで、地域緑化だけでなく地域交流と地域活性化にも繋がる。</p> <p>公園みどり課 自治振興費</p>
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	50	補助金	50	伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広く伝えるため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成29年3月20日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広く伝えるサイン設備を寄付していただくことになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理は協議会が行うことになった。</p>	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト整備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。</p>	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。また、ライトアップ装置の点検維持も同様に行うことができない。</p> <p>ライトアップにより、より良い景観の確保ができたと考えられる。</p> <p>道路・河川課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成29年度執行）

市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にともない、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。主に夏祭りの開催に要する労力が大いなる負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を別会する自治会が出ることで、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会の中止が懸念された。平成27年度並びに28年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。	平成29年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定され、自治会の負担が減少することから、運動会開催には、各自治会が参画することが決定された。自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賄うことが可能になった。毎年、参加者の高齢化と運動量の減量を求める意見を考慮して、午前中心のプログラムに変更した結果、多くの住民が参加して楽しめるスポーツ大会を開催できた。	実行委員会並びに自治会の役員、ボランティアスタッフともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者募集の努力がなされ、ここ数年は、参加者数がようやく前年並を維持できる運動会であった。	協議会と本事業の実行委員会とは、本事業についての協議が行われていない。協議会としては、少子高齢化が急速に加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、ゲームの要素を取り入れたり、1日1～2時間を四季ごとに行うなど、従前とは異なる別形態の運動会を模索していく必要があると考えている。		事業実施により、地域スポーツの振興、参加者へのスポーツ機会の提供、住民交流を図ることができたと考ええる。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	6,325		事業提案限度額 7,625千円	次年度繰越金額 1,300千円						
合 計	78,063		事業提案限度額 97,958千円	次年度繰越金額 19,895千円						